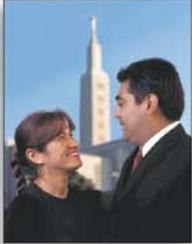


リアホナ

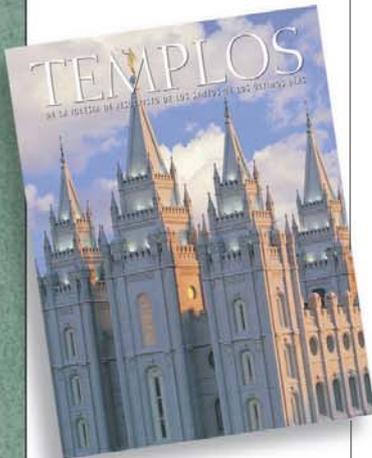


表紙

表紙—写真/ジェリー・ガーンズ。
裏表紙—アリゾナ州メサ神殿の写真/
ウエルデン・C・アンダーセン。
中国香港神殿の写真/
クレグ・ダイヤモンド。
メキシコ・メキシコシティ神殿。
トンガ・ヌカアロファ神殿の写真/
フロイド・ホールドマン



「フレンド」表紙
絵/ジュエル・ホドソン



「大管長会からの手紙」
47ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ—平和を見いだす 第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 25 家庭訪問メッセージ—従順を通して主の愛を実感する
- 26 何とお互いを必要としていることでしょう 中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン
- 31 悩みにあって慰めを受ける コリーン・M・ペート
- 34 犠牲ではありませんでした カサンドラ・リン・ツァイ
- 36 末日聖徒の声

「宣教師を探してきておくれ！」 ルイス・ロベルト・ラモス・デ・サ・フィルヨ
わたしたちの生活を変えた「永代教育基金」の融資

キム・シトラルピリ・サンチェス・アルダナ・カマチヨ
暗闇の中を二人だけで トリサ・マーチン

- 40 福音クラシック—神殿に心を向ける民 第14代大管長 ハワード・W・ハンター
- 47 大管長会からの手紙

青少年

- 8 モロナイの足 アダム・C・オルソン
- 12 最高の宣教師になる
- 18 祝福師の祝福
- 22 祝福を受けるにふさわしいでしょうか
レーチェル・マードック
- 48 御存じでしたか?

フレンド

- F2 預言者の声—春の大そうじ
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- F4 分かち合いの時間 ふたたびきよくなる シーラ・E・ウィルソン
- F6 野の花といのり 中央初等協会第二副会長 ゲール・M・クレッグ
- F8 作ってみよう—くい改めとあがない
- F10 小さなお友だちへ—証が芽生えるとき
七十人 スティーブン・E・スノー
- F12 ヒーバー・J・グラントだいかんちょうのしょうがいから
—もくひょうたっせい
- F14 メアリー・ジェーンは聞く
メアリー・アン・スノーボール



「最高の宣教師になる」
12ページ参照



「御存じでしたか？」
48ページ参照



「来れ、主の宮へ」 グラント・ロムニー・クローンソン画

「主の家の山はもろもろの山のかしらとして堅く立てられ、もろもろの峰よりも高くあげられ、もろもろの民はこれに流れくる。多くの國民は来て言う、「さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。」」(ミカ4：1-2)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンシュワンダー

顧問:モンティ・J・ブラフ、J・ケント・ジョリー、W・ロルフ・カー、ステイブン・A・ウェスト

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マービン・K・ガードナー、ビビアン・ポールセン、ドン・L・サール

編集スタッフ:コレット・ネベカー、オース、スーザン・パレット、シャナ・パトラー、ライアン・カー、リンダ・ステール・クーパー、ラリー・ポーター、ガント、ジェニファー・L・グリーンウッド、R・バル・ジョンソン、キャリー・カステン、メルビン・リービット、サリー・J・オデカー、アダム・C・オルソン、ジュディス・M・パーラー、ビビアン・ポールセン、ドン・L・サール、ジョナサン・H・スティーブンソン、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テラー、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンパーグ、ジュリー・ワデル、キンバリー・ウェップ、モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クヌーセン、スコット・パン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレンプラット、ハワード・ブラウン、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、デニス・カービー、タット・R・ピーターソン、ランドール・J・ピクストン、カリ・A・トッド、クラウディア・E・ワナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み/配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2951

定価 年間予約/海外予約 2,400円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
Eメール:cur-iahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、キリバス語、クアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2004 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。

印刷:日本

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines March 2004.

Japanese. 24983 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

March 2004 no. 3 IAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

家庭の夕べのための アイデア



「最高の宣教師になる」

12ページ——リチャード・G・スコット長老とチャールズ・デイディエ長老は、「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」に加わる備えをしている若人に勧告を与えています。これらの勧告について、子供と話し合ってください。伝道に出られる年になったときに聖霊によって教えることができるように、現在の年齢に関係なく、今すぐに実践できることは何かを尋ねてください。

「犠牲ではありませんでした」

34ページ——あなたの人生で、とても欲しかったものを犠牲にして、予期せぬ祝福を受けた経験を話してください。主は時々、わたしたちの想像をはるかに上回る計画をお持ちであることを説明してください。

「神殿に心を向ける民」

40ページ——あなたの神殿への思いを伝えてください。ハワード・W・ハンター大管長の記事から、神殿の儀式について、適切な範囲で詳しく説明してください。家族一人一人に、常に神殿に入るにふさわしくあるための、個人の目標を立てさせてください。また、もしも神殿が近くにあるのなら、頻繁に参入する目標も立てさせてください。

「祝福師の祝福」

18ページ——子供たちに、祝福師の祝福について疑問に思っていることがないか尋ねてください。子供たちの疑問に答えるために、この記事に書かれた情報を活用してください。

「御存じでしたか」

48ページ——イエスのバプテスマについての記録を読んでください(マタイ3:13-17;マルコ1:3-11;ルカ3:21-22;ヨハネ

1:19-37参照)。すべての人にバプテスマが必要であることを強調してください。イエスと主の預言者たちは、模範を示しました。この記事を活用し、預言者のバプテスマについてのクイズを作ってください。「どの預言者がプールでバプテスマを受けましたか」というような質問が作れるでしょう。

「野の花といのり」

F6ページ——ゲール・M・クレグ姉妹の話を一緒に読んでください。今までに寂しかったことがあるか、子供たちに尋ねてください。天の御父がいつも近くにいることを思い出させてください。両親が自分を愛し、自分のために祈っているということ、野の花のような小さなものを通して思い出せることに気づかせてください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略		
愛	25, F6	祝福師の祝福
証	F10	18, 22
贖い	F8	初等協会 F4, F10
イエス・キリスト	2, F4, F8	神権の祝福 36, F14
祈り	31, 36, F6	信仰 34, 36
永代教育基金	36	神殿 40, 47
音楽	31	聖文研究 31
改宗・改心	36, F14	世界に広がる教会
家族関係	31, F6	8, F10
家族歴史	40	備え 8, 12, 18
家庭の夕べ	1, 31	伝道活動
家庭訪問	25	8, 12, F14
犠牲	34	バプテスマ 48, F14
逆境	31, 36, F6	扶助協会 26
教会歴史	48	復活 2
清さ	22, F2	平安 2
悔い改め	22, F2, F4, F8	ホームティーチング 7
指導性	48	目標 F12
従順	25, 34	模範 8
		預言者 48, F12



平和を 見いだす

第一副管長

トーマス・S・モンソン

だれもが平和を願っている世の中なのに、どうして暴力が街角にあふれ、無意味な殺人の記事が新聞を埋め尽くし、家族の争いや不和が家庭の神聖さを損ない、多くの人の平穏な生活を奪うのでしょうか。

恐らくわたしたちは、平和に至る道から走っているのでしょう。わたしたちに必要なのは、立ち止まり、思索し、平和の君の教えについて考え、決意をもってそれを思いと行いに取り入れ、より高い律法に従い、もっと気高い道を歩み、キリストのさらに優れた弟子になることです。

平和の敵

アフリカの飢饉の惨憺たる状況や中東での残虐行為、世界各地で起きている民族紛争を耳にすると、わたしたちの求める平和は、努力と決意なしには実現しないことが分かります。怒りや憎しみ、争いは簡単には征服できない敵です。これらの敵はその破壊的なつめ跡に、悲しみの涙や、心の痛み、引き裂かれた希望を残していきます。その影響力は戦場だけにとどまらず、しばしば家庭の中や暖炉のそば、心の中にまで及びます。多くの人には主の次の勧告を忘れるのが早く、思い起こすのが遅いのです。「論争が、今後は決してあなたがたの中にあってはならない。……

まことに、まことに、あなたがたに言う。争いの心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をあおり立てる。

見よ、互いに怒るように人々の心をあおり立てるのは、わたしの教義ではない。このようなことをやめるようにというのが、わたしの教義である。』¹

ここで時間を過去に戻して、65年前にドイツ、バイエルン州の州都ミュンヘンで開かれた、必死の平和工作、和平会議のことを思い起こしてみましょう。今にも戦争が起ころうとしていた矢先、ヨーロッパ列強の指導者たちが集まりました。公に宣言された彼らの目的は、戦争を避けて、平和を維持できると考えられる方向に進むことでした。しかし、疑惑や陰謀、権力欲のために会議は失敗に終わりました。その結果、「平和」どころか、かつて経験したことのない規模の戦争と破壊に突入したのです。前の戦争で命を落とした一人の兵士の心に残る訴えは、無視されるか、少なくともわきへ追いやられました。彼は敵味方を問わず、何百万人も兵士のためにこの詩を書いたのでしょうか。

フランダースの野にケシの花が咲いている、
連なる十字架の間に。



**恐らくわたしたちは、
平和に至る道から
走っているでしょう。
わたしたちに
必要なのは、
立ち止まり、思索し、
平和の君の教えにつ
いて考え、決意をも
ってそれを思いと行
いに取り入れること
です。**

それは我らの墓のしるし
空にはヒバリが高く歌い、
銃の音にその声もかすか

我らは死にし者、
数日前には生きて
朝日と夕日とを見た
愛し、愛され、そして今横たわる
フランダーズの野に

我らの戦いを続けよ
倒れし我らの手より
たいまつを受けて高く掲げよ、
死にし者からの信頼を破れば、
ケシの花は咲いても、我らは眠らず
フランダーズの野に²

わたしたちは過去の過ちを再び繰り返すのでしょうか。有名な政治家ウィリアム・グラッドストーンは、平和の公式についてこう述べています。「愛の力が力への愛に取って代わる日を待ち望んでいる。そのとき、この世界は平和の祝福を享受するだろう。」

神のもたらされる平和

世界平和は尊い目標ですが、それは各自の求める個人の平和が大きくなったものです。わたしが言うのは人がつくり出す平和でなく、神が約束された平和です。つまり、家庭内の平和、心の平和、人生における平和です。人間の方法による平和は廃れますが、神の方法による平和は永続します。

わたしたちは次の言葉を思い起こします。「怒りは何も解決せず、何も築き上げません。ただ破壊するだけです。」³ 戦闘はあまりにも破壊的な結果をもたらすので、人々は平和への道を探るとき、成功するための方法や導きを切に求めます。そのような全世界を包む祝福を得るには、どうすればよいのでしょうか。どのような条件が必要でしょうか。神の祝福を得るには、神の命令に従わなければならないことを、心に留めましょう。わたしは3つのことを提案して、思いと行いの方向づけをしたいと思います。

1. 自己を探求する。
2. 人に手を差し伸べる。
3. 天に目を向ける。

まず、自己を探求することです。自己評価はいつも難しいものです。わたしたちはしばしば、改善が必要な分野には目を向けず、代わりに自分の良いところばかりを取り上げようとしています。エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899-1994年）はこのように助言しました。「平和の代価は義です。人々や国々は『平和、平和』と大声で主張しますが、平和を得るためには、各自が平和をはぐくむ特質である、個人の清さや高潔さの原則を身に付ける必要があります。平和は押しつけられません。人々の心と生活から生じなければならないのです。ほかに方法はありません。」⁴

また、十二使徒定員会のリチャード・L・エバンズ長老（1906-1971年）は、こう述べています。「内なる平和、理解を超えた平和を見いだすには、正直に生活し、互いに尊重し合い、義務を果たし、進んで働き、家族を愛して大切にし、人に仕え、思いやりを示し、忍耐や徳、信仰、寛容を身に付け、人生が学習と奉仕、悔い改め、成長の機会であることを認めなければならない。そして、祝福された、悔い改めと成長の原則がすべての人に与えられていることを、神に感謝するのである。」⁵

この点での個人の責任を吟味する場合、家庭や家族における両親の立場が非常に重要になります。ある著名人の団体が会議を開き、個人の生活、特に若人の生活における暴力の増加について調査しました。その討議の報告には、わたしたちが優先順位を検討するときに役立つものがあります。

「娯楽として暴力シーンを見せる社会では……、無分別な暴力が子供たちや青年たちの夢を破壊しても、驚くには当たらない。……

……失業や絶望は人を自暴自棄に追いやる。しかし、高潔さや正直、誠実が復讐や怒りよりもはるかに大切であることを教えられていれば、また尊敬や親切が最終的には成功へのより良い機会を与えてくれることを理解していれば、ほとんどの人は絶望的な行為には陥らない。……

暴力に反対する女性のサミットが、解決策を見いだした。——破壊的な行為と無意味な苦痛の増加を逆に抑える方法である。それは、昔ながらの家族の価値観に帰ることである。それによって驚くべき効果を上げることができる。」⁶

わたしたちはよく、子供にはもっと物が必要だと誤解しますが、実際に、子供が心の中で求めているのは、もっと一緒に時間を過ごすことだけなのです。富や資産を増やすことに執着するのは、主の次の教えにそぐわない考えです。「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびが付き、

また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。

むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。

あなたの宝のある所には、心もあるからである。』⁷

わたしはある晩、大勢の親と子供たちがソルトレーク・シティの交差点を渡って、大きなホールへ向かうのを見かけました。「美女と野獣」のショーを見に行くのです。わたしは道路わきに車を寄せて、楽しげな一行を見ていました。父親たちはきつとうまくおだてられて、やって来たのでしょうか。かわいい子供たちの小さな手をしっかりと握っていました。これは愛の実践です。思いやりについての無言の教えです。神からの優先順位に従って、時間を調整し直した姿がそこにありました。

実に、平和は人が主から教えられた模範に従って自らを改善するときにもたらされます。そのときわたしたちは、よく知っている賛美歌の簡単な歌詞に深い霊的な意味が隠されていたことを悟るでしょう。「家庭の中に愛あれば、見るものすべて美しく」⁸

第2に、人に手を差し伸べることです。昇栄は個人の問題であり、人はグループとしてではなく、確かに個人として救われます。しかし、人は一人では生きていけません。教会の会員には、奉仕するという決意が求められます。重要とは思えない責任や、報いのよく分からない責任もあるかもしれません。救い主に受け入れられる奉仕には、喜んで事に当たる精神と、いつでも差し伸べることのできる手と、決意に満ちた心が必要です。

時々、落胆がわたしたちの道を暗くし、挫折感がいつも付きまとうかもしれません。そして、サタンきべんの詭弁ぎせつをろうするささやきが耳に聞こえてくるかもしれません。「一人で世の中は救えない。おまえの小さな働きなど無意味だ。人のことを構っている時間などな



いんだ。」主を信頼し、そのような偽りに耳を借さず、奉仕の道をしっかりと歩み、すべてをささげて主の模範に従いましょう。決意の光が鈍るときや、心が弱くなるときは、主の次の約束から慰めが得られるでしょう。「善を行うことに疲れ果ててはならない。…小さなことから大いなることが生じるのである。見よ、主は心と進んで行く精神とを求めろ。』⁹

ある年に、初等協会は子供たちが神の聖なる神殿にもっと親しめるように働きかけました。それによって子供たちはしばしばグループで神殿を訪れました。小さな子供の笑い声や、快活な青少年の喜びに満ちた表情、あふれ出るエネルギーなどは、見る人の心を喜ばせました。子供たちは愛ある教師にソルトレーク神殿の大きな扉の前へ連れて来られたとき、手を伸ばして神殿に触れていました。まるでわたしは、主が子供たちを間近に呼び寄せて、次のように言うのを目の当たりにする思いがしました。「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。』¹⁰

第3に、天に目を向けることです。天に目を向けるとき、祈りを通して天の御父と交わ

世 界平和は
尊い目標です
が、それは
各自の求める
個人の平和が
大きくなったものです。
わたしが言うのは
人がつくり出す平和
でなく、神が約束された
平和です。つまり、
家庭内の平和、
心の平和、
人生における平和です。



天に目を向ける
とき、祈りを
通して天の御父
と交わることから
慰めと満足を感じます。
それが霊的な力への
道であり、平和への
パスポートなのです。

ることから慰めと満足を感じます。それが霊的な力への道であり、平和へのパスポートなのです。わたしたちが心に留めるのは、神の愛する御子、平和の君、人々に従うべき道を文字どおり示された開拓者です。主の神聖な計画は、わたしたちを罪や自己満足、誤りのバビロンから救い出します。主の模範が道を指し示しています。主は誘惑に遭われたとき、それを遠ざけ、この世の権力を差し出されたとき、それを拒絶し、命を求められたとき、それをささげられました。

ある重要な場面で、イエスはイザヤ書を引用してこう言われました。「主なる神の霊がわたしに臨んだ。これは主がわたしに油を注いで、貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね、わたしをつかわして心のいためる者をいやし、捕われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ〔るためである。〕」¹¹——人知を超えた平和をはっきりと宣言しておられます。

時には、死が侵入者としてやって来ます。この敵は人生の宴のさなかに突然現れて、光と歓喜を奪い去ります。死のむごい手はわたしたちの愛する人々に及ぶこともあり、後には困惑と不安が残されます。苦痛が激しい場合や重病の場合、死が隣れみの天使として迎

えられることもあります。しかし、残された人々にとって、救い主が約束された平和こそが慰めなのです。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」¹²「わたしは……あなたがたのために、場所を用意して行くのだから。……わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」¹³

愛する者を失ったすべての人々が、復活が事実であることを知り、家族が永遠であるという揺るぎない知識を得られるように心から祈っています。サリバン・バルー少佐という人は南北戦争時代の人で、ブル・ランの戦いで戦死する1週間前に、心のこもった手紙を妻に書き送りました。わたしと一緒に、この手紙から、彼の愛や神への信頼、勇気、信仰を感じ取ってください。

「1861年7月14日

ワシントン、キャンプクラーク

愛するサラへ

2、3日以内に、もしかすると明日にも移動する可能性が強くなりました。二度と手紙を書けなくなるといけないので、わたしがなくなったときに、君の目に触れるように少し書くことにします。……

今携わっている任務に少しの疑いも不安もありませんし、勇気は少しも失っていません。……この政府を擁立するためなら、人生のあらゆる喜びを進んで……投げ出すでしょう。……

サラ、君への愛は死を越えて続きます。全能の神以外にだれにも切れない固いきずなで結ばれているような気がします。でも、国への愛が強い風のように吹いてきて、戦場へとわたしを駆り立てます。

サラと一緒に過ごした幸せに満ちた日々を思い出しては、長い間そのような祝福を与えてくださった神と、そして君に感謝しています。君との生活や将来の夢をあきらめるのは

つらいことです。御心^{みこころ}であったなら、今も一緒に住んで愛し合い、息子が立派に成長するのを見守ることができたでしょう。しかし、神の摂理に対し、少しも不満はありません。時々、ささやく声が聞こえてきます。わたしが無事に帰るよという幼いエドガーの祈りかもしれません。もし帰れなければ、サラ、どんなに君を愛しているか決して忘れないでください。戦場で息を引き取るときには、君の名を呼ぶ^{よぶ}でしょう。わたしの……欠点や君に与えた多くの心痛を赦してください。わたしは何としばしば愚かで思いやりに欠けていたことでしょう。君の幸福に残った汚点をわたしの涙ですべて洗い流せたら、どんなにうれしいでしょう。……

でも、ああ、サラ、死者がこの世に戻れるなら、見えない姿で愛する人のそばに来られるなら、わたしはいつも君のそばにいます。喜びにあふれる日も、悲しみに沈む夜も、……いつも、いつも。そよ風が君の頬^{ほお}をなでるとき、それはわたしの息です。ほてった額に冷たい空気を感じる時、それはわたしの霊が通り過ぎるのです。サラ、わたしの死を悲しまないでください。わたしは霊界に先に行っておなたを待っていると思ってください。わたしたちはもう一度会えるからです。』¹⁴

平和についてのメッセージ

死の暗い影は啓示された真理の光によって、消し去ることが出来ます。主はこう言われました。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。』¹⁵

主御自身の言葉に加えて、主の遺体の世話をするために墓に近づいた、泣き悲しむマグダラのマリヤともう一人のマリヤに、天使が語った言葉を引用しましょう。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。』¹⁶

これがわたしたちのメッセージです。主は生きておられます。主が生きておられるからこそ、すべての人は再び生きるのです。春にケシの花が咲くフランダースの野で、あるいは深い海の底やほかの無数の場所で、それぞれ眠っている人々の家族に、この知識が平和をもたらすのです。「ああ、喜びの言葉『主は生けりと知る。』」¹⁷ ■

注

1. 3ニーファイ11:28-30
2. ジョン・マクレイ "In Flanders Fields," *The Best Loved Poems of the American People*, ヘーゼル・フェレマン選(1936年), 429
3. L・ダグラス・ワイルダー "Early Hardships Shaped Candidates," *Deseret News*, 1991年12月1日付, A2で引用
4. "Purposeful Living," *Listen, A Journal of Better Living*, 1955年1月-3月号, 19
5. Conference Report, 1959年10月, 128
6. "Family Values in a Violent Society," *Deseret News*, 1994年1月16日付, A12
7. マタイ6:19-21
8. 「家庭の愛」『賛美歌』181番
9. 教義と聖約64:33-34
10. マルコ10:14
11. イザヤ61:1。ルカ4:17-20参照
12. ヨハネ14:27
13. ヨハネ14:2-3
14. ジェフリー・C・ワード, *The Civil War* (1990年), 82-83で引用
15. ヨハネ11:25-26
16. ルカ24:5-6
17. 「主は生けりと知る」『賛美歌』75番

ホームティーチャーへの提案

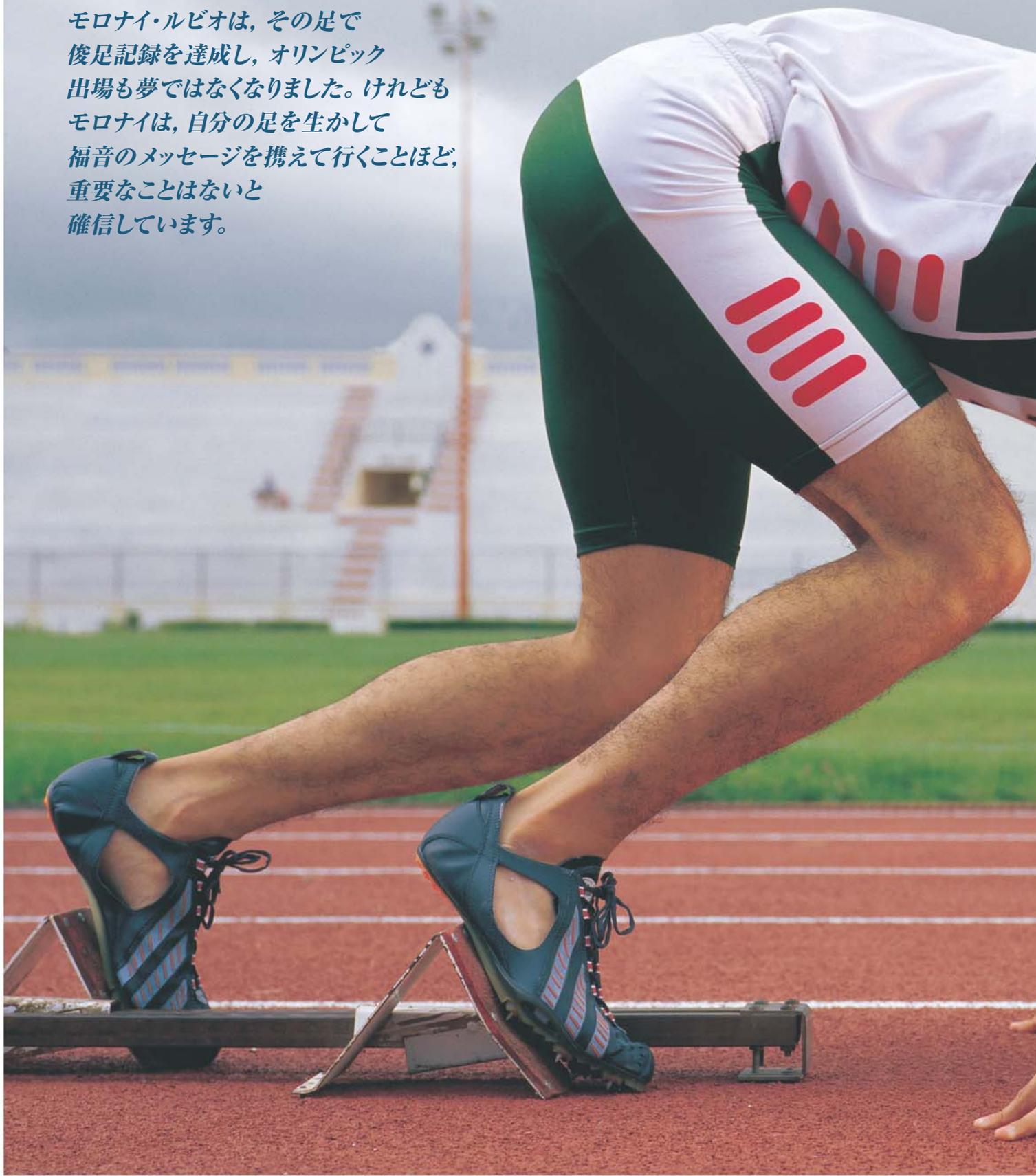
よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。次に挙げるのはその一例です。

1. 混乱した世界情勢に関する最近の新聞記事を見せ、これらの問題のために恐れを感じたことがあるか家族に尋ねる。そうした世界情勢にもかかわらず、平安を見だし、恐れを克服できるような救い主が助けてくださる方法について話し合う。

2. 家族の中の子供や青少年に、自分に不親切な人のことで悩み、あるいは学校で物事がうまくいかなくて、助けを必要とした経験があるか尋ねる。家族に、そのようなとき救い主がどのように助けてくださるか、経験を分かち合ってもらおう。

3. 担当家族の中に、愛する人を亡くしたことがある人がいる場合、救い主の復活とすべての人に及ぶその影響力について証^{あかし}を述べる。適切であれば、その人に家族に向けて証をしてもらう。

モロナイ・ルビオは、その足で
俊足記録を達成し、オリンピック
出場も夢ではなくなりました。けれども
モロナイは、自分の足を生かして
福音のメッセージを携えて行くことほど、
重要なことはないと
確信しています。



教会機関誌

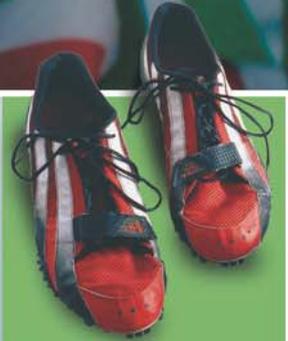
アダム・C・オルソン

モロナイ・ルビオは、16歳にして100メートルおよび200メートル短距離のメキシコ記録を塗り替え、トップアスリートになりました。同じ2002年の中央アメリカジュニア選手権では100メートル走で優勝

し、ユカタン州の年間最優秀選手に選ばれたのです。

モロナイの夢は足に託されています。中国北京で開催される2008年夏季オリンピック出場も期待されています。しかし、何らかの理由でオリンピックに出られなかったとしても、モロナイは偉大な業を成し遂げていることでしょう。

モロナイは足が速いことで脚光を浴び、珍しい名前のおかげで伝道の機会を度々得てきました。また、そのすばらしい



**ジュニア部門の
100メートル走
および200メートル
走で記録を塗り替えた
モロナイ・ルビオは、
陸上選手としての
将来に大きな期待を
集めています。**

モロナイの足

写真/クレーク・ダイヤモンド、特記されたものを除く。枠の写真/アダム・C・オルソン。



学校、教会、
陸上競技の練習など、
多忙なスケジュールの
中で、モロナイは
ギターを弾いたり、
家族と過ごしたりする
時間を楽しんでいます。

陸上成績のために何度もテレビ番組に登場し、その度に名前がテレビで報じられたのです。

メキシコ・メリダ・ラキンステークの祭司であるモロナイはこう語ります。「よく名前のことを聞かれます。そうすると福音について話す絶好の機会になります。大会を見ている会員は、この名前ではくも会員であることにすぐ気づきます。会員たちも誇りに思ってくれているのではないのでしょうか。」

コーチからはいつも、走るフォームが美しいと褒められてきました。しかしモロナイにとっては、「足が麗しい」ことも同じぐらい重要です。イザヤが宣教師について語った言葉を思い出します。「よきおとずれを伝え〔る〕者の足は山の上にあって、なんと麗しいことだろう。」(イザヤ52:7)

犠牲をささげる

モロナイは優れたランナーに成長するまで様々な苦勞を乗り越えてきました。短距離選手でいながら、マラソン並みの長い一日をこなしています。朝早く学校へ出かけ、放課後は軽い食事を急いで済ませるとすぐに練習へ行きます。帰宅するのは夜8時ごろで、夕食を取り、宿題を済ませば、あっという間に就寝時間です。競技に限らず、モロナイの日常生活のスピード

についていくのも至難の業です。

モロナイはこう言います。「これはある意味の犠牲です。友人と遊んだり、ギターを弾いたり、ほかのことをしたいと思うことがよくあります。でも、そんな時間はありません。」

やり繰り上手なランナー

トレーニングスケジュールに加え、宿題や家族、教会、友人との時間をやり繰りするモロナイにとって、「自分の力以上に走る」者について書かれた聖句は多くの意味を持ちます。

多くの10代の末日聖徒と同様、モロナイはたくさんのかんことを背負いすぎてつぶされないように注意してきました。ランナーの経験から、無理をしすぎると故障につながるのを承知しているのです。ベニヤミン王が民に語ったように、「人が自分の力以上に速く走ることは要求されてはいない」のです(モーサヤ4:27)。

しかしモロナイは、この聖句を言い訳にして現状に甘んじることはありません。むしろ聖句からさらに力をつける意欲を得ているのです。14歳で100メートル走を始めた当初、自己ベストは11.9秒でした。そして年とともに練習を積み重ねることで力がつき、タイムが縮まりました。現在モロナイの100メートル走自己ベストは10.46秒で、メキシコジュニア部門の全国記録となっています。

モロナイはこう語っています。「日々、あきらめずにトレーニングを積んだ結果だと思えます。自分に限界があることは分かっていますが、限界は引き延ばすことができます。トラックの上では、時折これ以上は無理だと思えます。でも、あとほんの少し努力することが、さらに上に到達するための犠牲の一部だと思えます。」

ベニヤミン王もこのように語りました。「しかし、賞を得るために勤勉に励むのは必要なことである。」(モーサヤ4:27) モロナイはトラック以外の場所でもこの教訓を忘れません。

「かつては克服できないと思っていた試練も、いつかは克服できます。主は決して克服できないチャレンジをお与えにはなりません。初めは乗り越えられないと思っていても、必ずできるようになるのです。成長し、進歩するため



ひけつ
の秘訣は、決してあきらめないことです。最終的に犠牲は実を結ぶのです。」

家族の応援

モロナイは、トラック上であるにかかわらず、試練のときの最大の支えは家族であると言います。モロナイは家族の支えに感謝しています。そして家族も、モロナイが有名であることを鼻にかけないことを感謝しています。家族もそれぞれに才能を持っているのです。

20歳の姉ジョイシーは、クラスで常にトップの成績を修めてきました。19歳のアルバロ・ジュニアは才能あふれる芸術家であり、歌も上手です。14歳のスティーブンは元気いっぱい、モロナイと同じように走るのが得意です。

父親のアルバロによると、10歳のマリアナは「将来はきっと商売上手になる」そうです。父親はこうも言います。「何かの全国チャンピオンでなくても、それぞれ自分は最善を尽くしたという達成感を持てるでしょう。」

実際に、モロナイはきょうだいを尊敬していると言います。とりわけ、現在メキシコ・プエブラ伝道部で働いている兄のアルバロ・ジュニアをとて尊敬しています。

モロナイは次のように言います。「神の助けがなければほくは何もできないといつも感じてきました。走る才能は神が下さったものだからです。いつも神の助けがあるように祈っています。福音の教えがなかったら、ほくの生活はもっと大変なものになっていたと思います。」

平和の福音の備えを足に履き

モロナイは、陸上競技を通して福音を広める助けとなった足を、今度は伝道地で福音を宣べ伝えるために役立てたいと考えています。

モロナイはこう言います。「ほくがランナーとして行っていることは、主にとって重要であると確信しています。でも、走ることに大切なのは、伝道に出ることです。伝道に出ることはほくの目標の一つです。ランナーとしてどのようなことがあっても、その目標を実現させたいと考えています。」

陸上選手のモロナイは、いずれ「平和の福音の備えを足に履き」(教義と聖約27:16)、宣教師となります。

そしてこの聖句のように、トラックシューズを伝道の靴に履き替えて出で立つことでしよう。



陸上競技(左下)におけるモロナイのずば抜けた才能は、早くから世間の注目を浴び(上)、トラックシューズを伝道の靴に履き替える前から福音を伝える機会を作ってきました。



最高の 宣教師になる

未来の姉妹宣教師

未来の長老

末日聖徒
イエスキリスト
教会

天の御父が
将来に期待
されるような
宣教師になるために、
今青少年は何ができる
のでしょうか。

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老と七十人会長会のチャールズ・ディディエ長老は教会機関誌との対談の中で、皆さんが「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」¹になるのに役立つ方法がたくさんあることを説明してくれました。中にはすでに始めていることも幾つかあると思います。

御霊の促しに従う

「御霊を受けなければ、あなたがたは教えてはならない。」(教義と聖約42:14)

最高の宣教師にとって聖霊の導きを受けることは不可欠です。御霊を受けることは伝道に欠かせません。わたしたちは信じていることを話したり教義を説明したりすることはできますが、人々の心に感銘を与え改宗に至らせるのは、御霊です。

リチャード・G・スコット長老は教会機関誌に向けて、このように述べています。「宣教師は、御霊の促しを受けられるような生活を送らなく

てはなりません。」

しかし聖霊の促しに気づき、従うことは、宣教師が宣教師訓練センターに行きさえすれば自動的に学べるというものではありません。できるだけ早い時期から経験によって学ぶべきことです。

また、聖霊の促しに従わなければ罪を犯すことになり、聖霊の導きを受ける能力が衰えるということも、早い時期から学ぶ必要があります(モーサヤ2:26;ヒラマン4:24参照)。

スコット長老はこのように述べています。「伝道に備える若人は、できるかぎり罪との境界線から離れなければなりません。離れれば豊かな幸福が得られ、御霊に導かれる力が最も大きくなります。」

過ちを犯したときは、心から悔い改めることにより再び聖霊を伴^{ほんりよ}侶とすることができるようにならなければなりません。残念ながら、罪の種類によっては最高の宣教師になる権利を失うこととなります。

スコット長老はこのように述べています。「宣



教師になる特権を若人から奪ってしまう行為があります。もしある種の行為を行ってしまったのであれば、悔い改めたとしても、現在の生活を続けるように求められます。』

みことば 御言葉を得る

「わたしの言葉を告げようとしないうで、まずわたしの言葉を得るように努めなさい。そうすればその後、あなたの舌は緩められる。それから望むならば、あなたはわたしの御霊とわたしの言葉、すなわち人々を確信に導く神の力を受けるであろう。」(教義と聖約11:21)

「渴いた井戸から水をくむことはできない」ということわざを耳にしたことがあるでしょうか。確かに水のない井戸は役に立ちません。

宣教師にも同じことが言えます。語る言葉を持たない宣教師が何の役に立つのでしょうか。もし自分自身が聖文の勉強をしていないのであれば、聖霊が人の心に響く聖句を思い出させてくださることはありません。そしてもし戒めに従った生活を送ってこなかったのであれば、安息日あかしを聖日とすることから得られる祝福について証することはできません。

スコット長老はこのように語っています。「御霊によって教えるためには、まず時間と労力をつぎ込む必要があります。

『出て行って、何をしたらいいか御霊が教えてくれるのを待とう』というものではありません。福音、とりわけ回復のメッセージを頭と心に蓄積して行ってください。』

宣教師訓練センターに入る前に、宣教師は聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠を読んで、証を得ているべきです。宣教師になる人は、贖いあがなや完全な福音の回復、神権の権能、生ける預言者の重要性について、そして啓示を受ける能力について理解してはなりません。また祈りを通して神との関係を築いてきていることが要求されます。

チャールズ・ディディエ長老は教会機関誌に対して次のように説明しています。「御言葉を告げられるようになるためには、まず御言葉を得なくてはなりません〔教義と聖約11:21参照〕。伝道に出れば御言葉を得られると思っている人がいます。伝道期間中はすることがとても多いので、伝道中に聖文を読むことから霊的な経験を得ようとするのはとても難しいことです。』

霊的な経験は、個人の祈り、聖文の研究、福音の原則に従うこと、教会の集会やミューチャルに出席することから得られるものです。セミナーやマスター聖句プログラムも福音を理解するうえで貴重な助けとなります。

ディディエ長老はこのように述べています。「宣教師が

みたま 御霊とともに教える



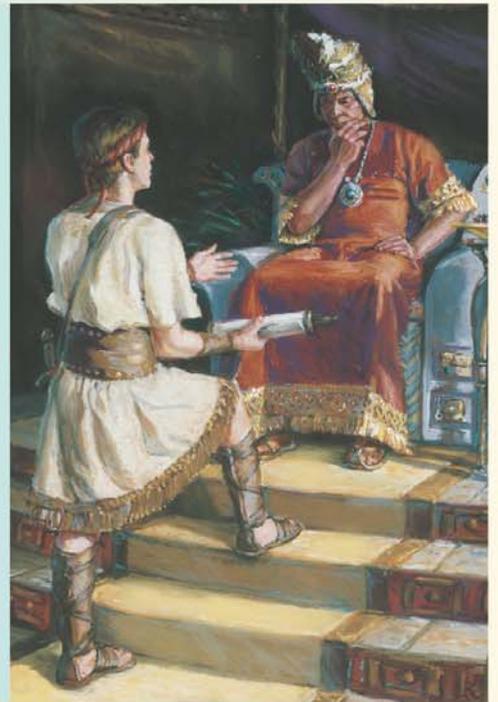
「神の力を受けて福音を教える過程を段階的に分けて考えると、第1に、御言葉みことばを得ようと求める、第2に御霊の力によって理解する、第3に、人々を説得する力を得る、となります。

では、御霊を得るにはどうすればよいでしょうか。主は、『信仰の祈り』によると述べておられます。つまり、誠心誠意で祈らなければなりません。さらに、信仰が増すように、また御霊の導きを受けて教えられるように、そして罪ゆるが赦されるように祈り求めま

す。モルモン書に出てくるエノスが祈ったのと同じ精神と熱意をもって祈らなければならないのです。……

御霊を得るためには、毎日聖典をよく研究しなくてはなりません。モルモン書の中には、福音を宣べ伝えるという業を立派に成し遂げた幾人かの宣教師たち、すなわちモーサヤの4人の息子であるアンモン、アロン、オムナー、ヒムナイの話が載っています。彼らは御業みわざを行うように自らを備えた神の僕しもべでした。』

大管長
エズラ・タフト・ベンソン(1899-1994年)、
「会員伝道を成功に導く鍵」
『聖徒の道』1991年4月号、4-5





そのような準備をしてくることを心から願
い、祈っています。ない知識を生み出すの
ではなく、すでにある知識に上乗せでき
るようにするためです。」

きょうの 今日から福音を宣べ伝えるようにする

「わたしは、人々に証し警告するためにあな
たがたを遣わした。警告を受けた人は皆、その
隣人に警告しなければならぬ。」(教義と聖約
88:81)

将来福音を宣べ伝えるようになるための最
良の方法として、今から始めることが挙げられ
ます。

ディディエ長老はこのように述べています。
「だれにでもできることはあります。伝道には、
いろいろな方法があります。手紙を書いたり、

教会のビデオをプレゼントしたり、パス・アロン
グ・カードを友達に渡したりしてください。青
少年の皆さんはフェローシップをしたり、再活
発化の助けをしたりすることもできます。また、
伝道について今から考えるようにすれば、伝道
に出たとき『前にやったことがある』というこ
とで得する点が多くなるでしょう。」

スコット長老は次のように述べています。
「青少年の皆さんが専任宣教師とともに働くの
も、御霊に対してより敏感になるための備えを
する一つの方法です。宣教師と一緒に、また
は定員会の集会で、あるいは友達に対して教
えたり証をしたりすることは、御霊の導きを感じ
るうえで助けになります。これらは皆、準備
のためのすばらしい経験ですね。」

でも、ちょっとだけ注意しておきます。始め



**教会の集会、
セミナー、
ミーチャルに
出席することは、
宣教師に必要な
福音の基礎を
築く助けとして
貴重なことです。**

友達に福音を伝えることで、伝道に備えることができます。手紙を書いたり、教会のビデオをプレゼントしたり、バス・アロング・カードをあげたりしてください。

たらやめられなくなりますよ。

スコット長老はこのように述べています。「伝道を一度始めたら、楽しくなってしまいます。興奮しますよ。負担にはなりません。わくわくしてきます。」

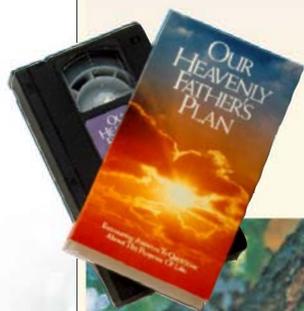
何を待ち望むか

「あなたがたは何を言おうかと、前もって思い煩ってはならない。ただ絶えず命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。そうすれば、それぞれの者に必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう。」(教義と聖約84：85)

教会は伝道活動への取り組み方を、御霊によって教え個人の必要に焦点を当てる点を強調する方向に変えるよう調整しているところです。

ディディエ長老はこのように述べています。「カリキュラムは変わっていません。宣教師は今でも同じ6つのレッスンをします。わたしたちがお願いしているのは、宣教師が個人および同僚との勉強会で、その日教えることを個人に合わせて決め、概要を準備するようということ。」

スコット長老はこのように述べています。「求道者の必要に合わせて求道者を教えます。求道者一人一人は違いますから。」



最高の宣教師を排出する時代に生きる若者たち



「これが『苦難の時代』です。文字どおり人の魂のために戦うのです。敵は容赦なく、残酷です。信じられない速さで人を永遠のとりこにしています。攻撃の手を緩める気配もありません。……

レーマン人との戦いで貢献するよう、アンモンの民が息子たちに期待したのと同じように、わたしたちは若いアロン神権者である皆さんに期待しています。皆さんが必要です。ヒラマンの2,000人の年若い兵士のように、皆さんも神の霊の息子であり、皆さんも天から力を授かり、神の王国を築き、守ることができるのです。ちょうどあの兵士たちと同じように、皆さんにも神聖な聖約を交わしてもらう必要があるのです。ちょ

うど彼らがそうであったように、皆さんにも完全に従順かつ忠実になってもらう必要があるのです。

今必要なのは、教会史上最高の宣教師となる人々です。必要なのは、ふさわしい、資格を満たした、霊的な力にあふれる宣教師です。……

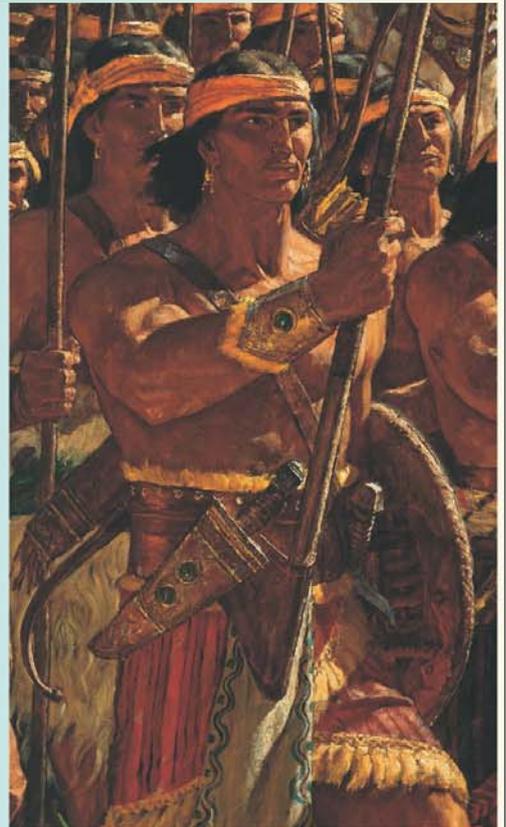
霊的に弱く、中途半端な決意しか持たない若者は必要ではありません。ただ単に働き人を補充するためではなく、皆さんの全身全霊を必要としているのです。いきいきとして、思考力があり、情熱のある宣教師、聖なる御霊のささやきに耳を傾け、それにこたえる方法を知っている人が必要です。」

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード

「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」

『リアホナ』2002年11月号, 47



宣教師は現在、福音を自分の言葉で説明するように求められていて、レッスンの中で福音の原則をどのような順番で教えるかを調整することができます。

スコット長老は、さらにこう言いました。「宣教師はまるでテープレコーダーを再生するように、暗記しておいたメッセージをいつも繰り返すわけではありません。基本的な教義とそれを裏づける聖句を、そしてそれが自分自身の経験とどう結びつくかを頭と心に入れておかなければなりません。今の宣教師は、すばらしい回復のメッセージを紹介する備えがこれまで以上にできています。」

宣教師訓練センターで宣教師は、概要の準備の方法、自分の言葉で教える方法、御霊によって教える方法を自国語で学んでいます。外国語を修得しなくてはならない宣教師は、レッスンの内容を自国語で学ぶことに大半の時間を費やしています。

スコット長老はこのように述べています。「宣教師が赴任先の伝道地に到着すると、言語の勉強を続け、自分で学んだことを教えるメッセージに組み込んでいくうえで、同僚がより重要になってきます。」

皆さんにはできます

皆さんは教会史上最高の宣教師になることができます。それには努力と献身が必要です。そして信仰と犠牲が必要です。将来最高の宣教師になることは、今最高の青少年になることから始まります。必ずできます。

スコット長老はこのように述べています。「現代のティーンエージャーの大半は並外れた素質と研ぎ澄まされた霊性を持ち合わせています。世の中はどんどん悪くなってきていますが、福音を教える能力は高まってきています。そして今の青少年の皆さんはよく準備された宣教師になるでしょう。そのような宣教師は全世界に出て行ってすばらしい伝道を行い、家族や個人をしっかりと地上の神の王国へ導くことにより現在から永遠に続く道を整えることになるのです。」■

注

1. M・ラッセル・バラード「最高の宣教師を輩出する時代の生きる若者たち」『リアホナ』2002年11月号, 46-49参照。ゴードン・B・ヒンクレー「神権を持つ男性たちへ」『リアホナ』2002年11月号, 56-59も参照



祝福師の祝福

祝福師の祝福を受けるためには、
(1) 祈りと悔い改め、
聖文の研究や
教会への出席を通して
天の御父に
近づくことにより、
備えをしなければ
なりません。

(2) 監督の面接を受け、
備えができているか
どうか確認して
もらいます。

(3) 監督から、
祝福師の祝福のための
推薦状を受けます。

「祝福師の祝福とはどのようなものですか。」「どうすれば受けられますか。」「なぜ重要なのですか。」

祝福師の祝福に関して

よく耳にするこのような質問への
答えを以下にまとめてみました。

多くの教会員は10代のころに、祝福師の祝福を受けることについて考え始めます。以下の情報は、皆さんが祝福師の祝福について理解し、受ける備えをするうえで役立つでしょう。

祝福師の祝福とはどのようなものですか。

祝福師の祝福には、大きく分けて二つの目的があります。一つは、祝福師が靈感を受けてあなたの血統、すなわちあなたが属するイスラエルの部族名を宣言することです。二つ目は、預言の霊の導くままに、祝福師が祝福を宣言することです。個人に対する約束、警告と訓戒が与えられることもあります。祝福師の祝福は、あなたが達成できる事柄につい

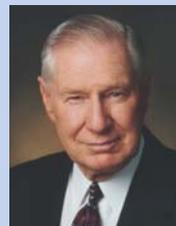
て述べるとともに、信仰を働かせて義にかなった生活をするときに受けることのできる祝福を明らかにするものです。

なぜ血統は重要なのですか。

教会員は皆、イスラエルの12部族のいずれかに属しています。血縁上の実際の子孫ではない場合には、バプテスマを通してイスラエルの家に「養子縁組」がなされます。自分の血統を知ることは、人生で導きを受けるうえでの助けとなるでしょう。なぜなら、12部族のいずれかに属するという事は、それぞれの部族だけに与えられる特別な祝福と使命を受けることを意味するからです。ヤコブが息子たち（各部族の長）に与えた祝福が創世記第49章に記されています。

祝福師の祝福を受けることができるのはどのような人ですか。

祝福師は、長老や大祭司と同じようにメルキゼデク神権の職の一つですが、祝福師の祝福を受けるために、特別に召され、聖任されます。教会員は皆、自分の所属ステークの祝福師から祝福を受けます。ステークに祝福師



わたしたちを 導く星

「聖任された祝福師から受ける祝福は、わたしたちを導く星となります。わたしたち個人にあてた神からの啓示なのです。この星に導かれて進むなら、つまりいたり迷ったりすることはありません。祝福師の祝福は心の錨(いかり)となり、わたしたちさえふさわしければ、死も悪魔も宣言された祝福を反故(はんこ)にすることはできないのです。宣言された祝福は、今より後永遠にわたって恵みをもたらすことでしょう。」

第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト
「神権の祝福」
『聖徒の道』1996年1月
号, 67

がない場合は、最寄りのステークの祝福師から受けることができます。ステーク祝福師のいない地域に住んでいる場合は、祝福を受ける手配をするにはどうしたらよいか監督や支部長に尋ねてみてください。直系の親族(祖父など)が祝福師である場合、所属ステークが異なっても、その祝福師から祝福を受けることもできます。

どんな人が祝福師の祝福を受けるのですか。

改宗してからの年数にかかわらず、ふさわしい教会員はすべて祝福師の祝福を受ける資格があります。また、ぜひ受けるべきです。

何歳になったら祝福を受けることができるのですか。

年齢は特に決めていませんが、祝福の持つ神聖な価値を理解できるに十分な年齢であることが求められます。

祝福はどのようにして与えられるのですか。

祝福師があなたの頭に両手を置き、靈感によって祝福を授けます。祝福はあなたへの導きを明らかにするものです。祝福の言葉は、生涯にわたって研究するための文書として手もとに置けるよう、筆記されます。紛失に備えて、祝福文の写しを教会で保管します。

祝福師の祝福を受けるにはどうしたらよいのですか。

まず、監督の面接を受ける約束を作ってください。面接を通して監督はあなたが十分な備えができていて、ふさわしいかどうかを判断します。そのうえで、推薦状を発行するか、あるいはもっとよく準備ができるように指導するかを決定します。推薦状を受けた後、祝福師に直接連絡し、祝福を受ける予定を立てます。祝福の際、両親を含めてだれに立ち会ってもらうべきか、監督や祝福師に相談してください。約束の当日は推薦状を忘れない



祝福の成就

「時々、祝福師の祝福の中で約束されたことがまだ成就していないからといって、思い悩む人がいます。……それはその祝福が成就しないという意味ではありません。物事は主がふさわしいとされるときに起こるのであって、自分の思いによるとは限らないことを知っておくのはよいことです。永遠の性質を有する物事には時間の制約がありません。前世から死の幕の向こうの世界まで、わたしたちの人生は永遠の人生なのです。」

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー
「ステーク祝福師」
『リアホナ』2002年11月号、45





ようにしましょう。

自分には備えができていますかどうか、どうすれば分かりますか。

祝福師の祝福を受けたいという気持ちは、神があなたに何を望んでいらっしゃるかを知り、それに従って生活したいという願いに基づくものでなければなりません。祝福を受ける理由が、好奇心や、だれかの強制といったものだとしたら、正しい動機とは言えません。備えができていますかどうか判断できるように監督が助けてくれます。

どうすれば備えをすることができるのですか。

主に近づくために、できる限りのことを行ってください。祈り、断食、聖文の研究、瞑想、悔い改めを通して備えができるでしょう。この神聖な機会のために、この世のことに関する悩みは捨て去ってください。

何を着て行けばいいのですか。

安息日の服装をしていくとよいでしょう。

約束された祝福はいつ成就するのですか。

祝福師の祝福には、前世での事柄を明らかにするものもあります。しかし、大部分は、現世と来世の生活に関する導きです。祝福は

永遠にわたるものであるため、現世では実現しないものも含まれているかもしれません。

約束された祝福はすべて成就するのですか。

すべての祝福は、あなたの忠実さと主の時に基づいています。またあなた自身の成長や能力、置かれた環境に応じ、生涯を通じて様々な形で成就するでしょう。

ほかの人に祝福文を見せてもよいのですか。

あなたへの祝福は天の御父とあなたとの間だけの個人的なものです。祝福文を家族や親しい人たちに読んでもらうのもよいでしょう。ただし、祝福文は大切に扱わなければならないので、ほかの人のものと比較すべきではありません。

祝福師の祝福は人生を通して大いなる価値を持つものです。祝福文の中でなされた約束に備え、ふさわしく生活するとき、現世では天の御父により近づくことができ、来世では天の御父のもとへ帰ることができるでしょう。■

推薦状を受けた後、(4) 祝福師に連絡を取り、祝福を受ける日の予定を立てます。そして(5) 祝福師から祝福を受けます。与えられた祝福は(6) 文書として記録され、(7) その写しが2か所に郵送されます。一つは(8) 安全に保管するために教会本部に、もう一つは(9) あなたのところに郵送されます。届いた祝福文は生涯を通じてあなたの導きとなるでしょう。

祝福を受けるに ふさわしい でしょうか

監督室を出て廊下を歩いて行くうちに、監督の最後の質問が、心に重くのしかかってきました。

推薦状を受け取ったものの、不安は消えませんでした。ずっと以前のあの出来事について、ほんとうに救ゆるされているのでしょうか。監督は、わたしのことを悪く思わないでしょうか。

レーチェル・マードック

ステーク祝福師のファイヤサイドに出席したわたしは、祝福師の祝福を受けるのがとても楽しみになりました。

祝福師の祝福を受けるためには監督の面接が必要であると知り、幹部書記に連絡して、次週のミュウチャルの後に約束を取りました。

当日、人けのない教会の廊下を進み、監督室のドアの前に立ちました。ノックをし、「どうぞ」と招かれ、室内に入りました。「学校はどうだい」というような話から入り、それから、面接の用件を聞かれました。監督は、わたしが祝福師の祝福を受けたいと望んでいることを知り、喜んでくれているようでした。

わたしたちは、祝福師の祝福とはどういふものか、祝福師の祝福を受けることにはどのような意味があるのか、心構えはできているか、などについて話し合いました。それから監督は、「あなたは祝福を受けるにふさわしいですか」と尋ねました。「知恵の言葉に従っているだろうか、教会の集会に出席しているだろうか、福

音に対する証あかしを得ているだろうか」と自問しました。もちろん、自分が完全には程遠いことも自覚していましたが、わたしは正直に、偽りなく「はい」と答えることができました。

それから、監督は最後の質問をしました。「神権指導者のもとで解決すべき問題で、まだ解決していないことはありますか。」

わたしは「いいえ」と答え、推薦状を受け取り、監督室を出ました。これで祝福師と約束を取る準備が整いました。暗い廊下を歩いて行くと、最後の質問が徐々に心に重くのしかかってきました。「過去に何か問題があっただろうか。」

そう考えるうちに、小さかったころ、ある友達の家は何度か遊びに行ったときのことを思い出しました。そのときの遊びのことがずっと気にかかっていました。同じようなことは二度むじゅくとしていませんでしたが、そのささいで無邪むじやくな悪ふざけについて、監督に話すべきかどうか何度か迷ったことがありました。それでも、それほど重大な間違いではなかったの、そ





**監督は、
この問題に関して、
もう一切悩む必要は
ないと語りました。
再び監督室を
出たとき、
わたしの心は喜びに
あふれていました。**

のうち忘れてしまうだろうと思っていました。しかし、どうやら忘れてはいないようでした。

人生でたった1度しか祝福師の祝福を受けられないのなら、曇りのない心で受けたい、と思いました。わたしはきびすを返し、監督室に向かいました。心臓が口から飛び出しそうなくらいどきどきしていました。笑われたり軽くあしらわれたりするのではないかと気が気ではありませんでした。わたしは勇気を振り絞って、監督室のドアを再びノックしました。

監督は、わたしを見て驚いていました。わたしは思い切って話しましたが、緊張しすぎて、支離滅裂しりめつれつになっていました。監督は、あざ笑うことも、軽くあしらうこともありませんでした。それどころか注意深く耳を傾け、当時や現在のことについて、わたしに少し尋ねました。そして、主と個人的に悔い改めをしたかどうかを確認しました。それから監督はこう言いました。「このまま事を進めて、祝福師の祝福を受けてよいと思います。このことに関して、もう一切悩まなくていいですよ。」

再び監督室を出たとき、わたしの心は澄み切り、喜びにあふれていました。廊下を歩いても、地に足が着いていない気がしました。わたしは確かに清いのです。数年来気にか

かっていたことが、神権指導者によって解決したのです。

約束の夜、わたしは曇りのない澄み切った心で祝福師を訪問し、祝福を授かりました。「あなたが主への愛を示すために、戒めを守ることを選んだので、主は喜んでおられます」という祝福師の最初の言葉を聞き、涙があふれました。主がわたしに話しかけておられ、完全ではないながらも、わたしの実状を喜んでおられると強く感じたからです。

それからわたしは、自分のふさわしさに疑問があるときには、いつでも神権指導者のもとに行けるということを学びました。神権指導者がどれほど助けたいと思っているのかも学びました。神権指導者は、わたしが完全ではなくても、わたしのことを悪く思ったりしません。また、事の大小にかかわらず、わたしの問題について話し合うことを、時間の無駄であると思ったりもしません。わたしたちが、赦しによりもたらされるすばらしい喜びを味わうとき、神権指導者もまた、同じ幸福を味わっているのです。

■
レーチェル・マードックは、ウィスコンシン州マディソンステーク、ジェーンズビルワードの会員です。

従順を通して 主の愛を実感する

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
——「なぜわたしたちはこれほどまでに幸福な民なのでしょう。それは、信仰のゆえです。つまり、わたしたちの天父が、あらゆることを管理しつつ、愛と感謝と従順の心を抱いて御前を歩む息子娘たちの面倒を見てくださるという静かな確信が、心の中に宿っているからです。自分の生活をそのような方向に進めることができれば、これからずっと幸福な民であり続けることでしょう。」（『人々がわたしたちについて尋ねること』『リアホナ』1999年1月号, 79）

従順になるための強さをどのように見いだすことができるでしょうか。

大管長 スペンサー・W・キンポー（1895-1985年）——「主に仕えることはむなししいと思いたくるときには、信仰をかき立て、神が与えておられる豊かな約束を信じ、従い、そして忍耐強く待つことが必要である。主はわたしたちに対して与えられた豊かな約束を必ず果たされる。……忠実な者には豊かな報いが与えられる。わたしたちが理解できないほどの祝福がもたらされるであろう。……義を行う人に対してこの世で与えられる祝福は大きなものであるが、来世における祝福に比較すれば、小さく見える。」（『救しの奇跡』305-307）

十二使徒定員会 ヘンリー・

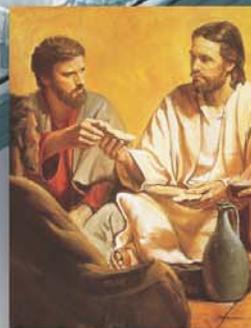
B・アイリング——

「戒めを守るためには天の助けが必要です。時がたつにつれ、天の助けを受ける必要性もさらに増していきます。……単に救い主のもとへ行き、主を待ち望むと決意することにより、天の守りの力を引き寄せることができます。」（*To Draw Closer to God* [1997年], 98）

従順によって、あなたの生活はどのように祝福されてきたでしょうか。

モーサヤ2：41——「あなたがたは、神の戒めを守る者の祝福された幸福な状態についても考えてほしい。……これらの者は物質的にも霊的にも、すべてのことについて祝福を受ける。そして、もし最後まで忠実であり続けるならば、彼らは天に迎えられ、決して終わりのない幸福な状態と神とともに住めるのである。」

十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル——「わたしたちは……従順であることによって、神がわたしたちを不死不滅の子供としていかに愛しておられるかを知ることができます。ブリガム・ヤングが語ったような方法で知るのは、わたしたちは〔神〕に従っているのをどのようにして知ることができるでしょうか。確認できる方法が一つだけあります。それは主の御霊の靈感による方法です。主の御霊はわたしたちが主のものであること、わたしたちが主を愛していること、主がわたしたちを愛しておられることをわたしたちの霊



に証してくれ
ます。啓示の
霊によってこ

れを知るのです。』（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』, 82参照）各自がこの証を得るなら、……どのような問題に直面しようとそれに対処し、よく堪え忍ぶことができます。」（“The Pathway of Discipleship,” *Ensign*, 1998年9月号, 7）

中央若い女性会長 スーザン・W・タナー——「毎週、わたしたちは『御子の御名を受け』『いつも御子を覚え』『御子が与えてくださった戒めを守る』というバプテスマの聖約を新たにします（教義と聖約20：77）。これらを行うとき、わたしたちはキリストを確固として信じることができ、霊は高められ、心は愛で満たされます。……聖約はわたしたちの心を広げ、『神とすべての人〔への〕愛』を感じさせてくれます（2ニーファイ31：20）。」（『聖約を確固として守る』『リアホナ』2003年5月号, 100-102）

ヨハネ15：10——「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。」■



何とお互いを 必要としていることでしょう

天の御父はその娘たちに、
世のあつれきからの避け所を
与えてくださいました。

中央扶助協会会長
ボニー・D・パーキン

18 42年3月17日、預言者ジョセフ・スミスは、女性のための主の組織である扶助協会を設立しました。扶助協会は、主にとって大切な組織です。わたしにはそれが分かります。天の御父は扶助協会を通して、女性に世のあつれきからの避け所を与えてくださいました。扶助協会の創設以来、姉妹同士で集り、神権指導者から導きを受けることは、キリストに近づく^{こんにち}うえで助けとなってきました。これ以上偉大な大義は、当時から今日もありません。

扶助協会は、男性が作った組織でもなければ、女性が作った組織でもありません。ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)が説明したように、「女性と男性に救いをもたらすため

に、神によって作られ、神によって承認され、神によって組織され、神によって聖任され〔た〕のです。¹女性にとってこれほど価値ある組織は、主の王国の中でほかにありません。では、神から与えられたこの組織を大切にしているでしょうか。扶助協会の一員であることを誇りに思っているでしょうか。一人の姉妹として、扶助協会を大切なものと考えているでしょうか。

互いを必要とする

ある80代の姉妹は、扶助協会に対して抱いている気持ちを一言で表現するよう求められて次のように記しました。「扶助協会は、神が与えてくださった女性のための大学です。わたしは学士号を持っていますが、扶助協会を通して、霊や現世にかかわる最も価値のある、意義深い教育を受けることができました。この組織のおかげで、人生を永遠の見地から見ることができるようになりました。」²

年齢に関係なく、一人一人が扶助協会の仲間だという意識を持っているでしょうか。マージョリー・ヒンクレー姉妹はこう語りました。「わたしたちは何とお互いを必要としていることでしょうか。高齢者には、若い姉妹たちがが必要です。若い姉妹の皆さんも同じように考えてくださっていただければ幸いです。女性には女性が必要だということは、社会的事実なのです。わたしたちは、お互いに満足のいく固く深い友情が必要です。」³わたしたちは互いを必要としています。扶助協会は、女性同士が安心して互いを気遣い、助け合って成長し、一人一人のキリストに対する証に耳を傾けながらそれぞれの心の内を理解する場所でなければなりません。

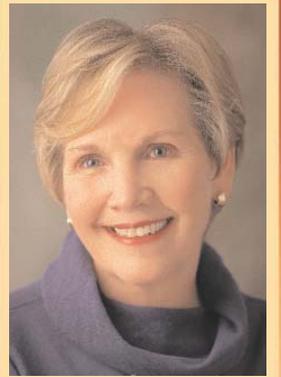
十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長

代理は、扶助協会の目標からそれないよう警告しています。「あまりにも多くの姉妹が、扶助協会を単に出席しなければならないクラスであると考えています。すべての女性が、クラスに出席するだけでなく、扶助協会への帰属心を持ってよう助ける必要があります。」それからパッカー長老は次のように力強くチャレンジしました。「姉妹の皆さん、単に扶助協会のクラスに出席するという考えを卒業して、扶助協会の一員であるという意識を持つようになりましょう。」⁴

一員であるということは、名前が名簿に載っていることだけを意味するものではありません。わたしたちは、扶助協会の一人の姉妹として、また姉妹全体として、次の6つの分野で貢献するよう召されているのです。

- 主イエス・キリストを信じる信仰を築き、王国の教義を教える。
- どの姉妹も神の子として価値があることを強調する。
- 慈愛を実践し、助けの必要な人をいたわる。
- 家族を強め、守る。
- それぞれの姉妹に仕え、支える。
- 神権の祝福をすべて享受できるように姉妹たちを助ける。⁵

以上が扶助協会の目標です。これを見ると、



わたしは扶助協会が大好きです。扶助協会は、自分が女性であることを自覚させてくれます。ここまで成長できたのは、扶助協会です。知り合ったすばらしい女性たちのおかげです。





扶 助協会を通して、
わたしたちは
互いに
助け合い、成長し、
キリストに近づくのです。

目指すものがいかに広大で、その使命がいかに多岐にわたっているかが分かります。⁶ また、これらの目標は姉妹たちの務めを明確にし、この組織とほかのあらゆる組織との間に一線を画しているのです。

ヤングアダルトの姉妹たちが貢献できること

扶助協会の目標を実践し、違いを生み出したある姉妹の経験をお話ししましょう。

このヤングアダルトの姉妹は、日本で英語の授業を教えていました。そしてあるとき、校庭で日本人の子供たちに囲まれて質問攻めに遭ったのです。「日本とアメリカの子供とでは、どっちが好きですか。」「おすしは食べられますか。」「『バスケットボール』のことを英語で何と言いますか。」こんな騒ぎの中、この扶助協会の姉妹は、だれかが腕をつついてのりに気がつきました。振り返ると、それは眼鏡をかけた三つ編の女の子でした。姉妹はこう述べています。「わたしはしゃがんでその子の顔をのぞき込み、たわいない質問に決まっていると思いつつも、質問を待ちました。ところが、その子が小さな声でおずおずと質問をしたとき、周囲の騒がしさが一瞬間こえなくなったような

気がしました。『イエス様のことを知っていますか?』胸を突き刺すようなこの大切な質問に、わたしは驚きました。『はい、もちろん。イエス様のことをよく知っています。』ほほえんでこう答えたとき、胸の中は驚くばかりの愛で満たされました。』⁷

愛するヤングアダルトの姉妹、皆さんはイエスのことを知っています。イエスを知っているからこそ、皆さんは姉妹たちに必要な明るさや新鮮さ、活力を与えてくれるのです。皆さんが扶助協会の一員であることに感謝しています。わたしたちは、救い主とその業に対する皆さんの信仰を通して祝福を受けます。ある年配の姉妹が、皆さんのことをこう言っていました。「若いいきいきとした女性が活力や生命力に満ちているばかりでなく、霊的にも成熟し、非常に強い人格と証を内に秘めているのを見ると、霊的に強められます。見ているだけですばらしい気持ちになります。恵みを数え上げられるのも、皆さんを通して自信を取り戻し、信仰や将来に対する『完全な希望の輝き』を持つことができるからです。』⁸ (2ニーファイ31:20参照)

何を提供できるでしょうか

扶助協会創立100周年を迎えた1942年、大管長会は次のような声明を出しました。「わたしたちは扶助協会の姉妹たちに、扶助協会は世界でも珍しい組織であることを忘れないでいただきたいと思います。それは、主の靈感によって組織されたものだからです。」声明は次のように続きます。「世界中でそのような起源を持つ女性の組織はほかに一つとしてありません。』⁹

わたしたちは、扶助協会が、神が作られたほかに類のない組織だということをおぼえてははいないでしょうか。この組織の一員であることに對してむとんちゃくになってはいないでしょうか。姉妹の皆さん、そうであってはなりません。扶助協会とその姉妹たちを大切にしなければなりません。扶助協会の初代会長であるエマ・スミスに主はおっしゃいました。「この世のものを捨てて、この世に勝る世のものを求めなけ



なければならない。』(教義と聖約25:10) 1830年の人々にとって思慮深いものであったこの言葉は、現代においても思慮ある勧めとなっています。

ゴードン・B・シンクレイ大管長は、中央扶助協会会長会にこう言いました。「教会の女性たちは、信仰を育てられるような環境の中でお互いに対する友情をはぐくんでゆく必要があります。これこそが、扶助協会の働きなのです。」

扶助協会は何年もの間、合衆国の全国女性協議会の一員でした。ベル・スパフフォード姉妹は、中央扶助協会会長に召されて間もなく、ジョージ・アルバート・スミス大管長(1870-1951年)に、ニューヨークでの会合に行くのはお金がかかり、得るものもあまりないことを伝えました。「スミス大管長は、[スパフフォード姉妹]を優しくたしなめてこう言いました。『あなたはいつも、何が得られるかで物事を判断しているのですか。何を提供できるかと考えてもよいのではないのでしょうか。』」¹⁰

姉妹の皆さん、皆さんは扶助協会に何を携えて行きますか。何を提供できるのでしょうか。日曜日にほかに行く所がないから扶助協会に出席するのでしょうか。何かを得るばかりでなく、ささげる場だと考えているのでしょうか。自分を顧みることなく人々に尽くすなら、この愛する組織の一員であること

をさらに感謝するのではないのでしょうか。

人に何かを供したいという思いがあれば、日曜のレッスンの話し合いで発言できるよう準備して行くことでしょう。ささげるものがあれば、家庭・家族・個人を豊かにする集いに忠実に出席することでしょう。それは、隣にいる姉妹への励まし言葉の言葉かもしれません。家庭訪問でメッセージについて話し合うときに、主の真理を証することもできます。扶助協会の一員であることにどれだけの価値を置いているかは、すべての言動に表れるはずで

ある姉妹は、地域で開かれていた洋裁教室に母親とともに参加したときの経験を話してくれました。「裁縫をしているとき、母は何もしないでただ座っていました。『マーガレット、作業が進んでないわ。』ある女性にこう言われて、母は一息置いてから話し始めました。わたしたちはそのころ、数日にわたって病院通いをしていました。母の背中に腫瘍しゅようができていたのです。その場にいた女性たちは皆手を止めて母の方に目をやりました。その中の一人がこう言いました。『マーガレット、あなたのために断食して祈ってもいいかしら。全員ですわ。』彼女は、そこにいた女性の半分は教会員でないということまで考えが回らなかったのです。教師はわたしを見てこう尋ねました。『断食して祈るには、どうしたらいいの。』



扶助協会の一員
であることに
どれだけの
価値を置いているかは、
すべての言動に
表れるはずだ。

わたしは、この世的なものをわきに置いて主に心を向け、助けを願うことを説明しました。教師は少し考えてから、こう言いました。『それなら、できるわ。』¹¹

神の娘たちが集まって、慈愛を実践し、助け合ったのです。自分が何者であるかはっきりと知っていた一人の扶助協会の姉妹は、皆に断食と祈りを勧めることによって救い主を信じる信仰を示しました。この女性たちは、違いを生み出したのです。

扶助協会に熱心に参加する

わたしは扶助協会が大好きです。扶助協会は、自分が女性であることを自覚させてくれます。ここまで成長できたのは、扶助協会を知り合ったすばらしい女性たちのおかげです。彼女たちは、わたしを励まし、愛を示し、信じてくれました。その中には母や祖母、そしてポーリーン・ソルマンダーという名の愛する姉妹がいました。ポーリーンが60代、わたしが30代前半のころのことです。ポーリーンの主に対する愛は、わたしの信仰を強めてくれました。ポーリーンがイエス・キリストを愛し

ていたことは一目瞭然^{りょうぜん}でした。わたしが証したとき、ポーリーンはそばにいて、御霊^{みたま}を感じたと言ってくれました。召しを果たしていたときも、ポーリーンはそばにいて、成功や失敗の話を聞いてくれました。30代、40代のころ、わたしにはそのような人が必要でした。だれの人生にもポーリーンのような人が現れるというわけではありません。ポーリーンのような人がいれば、皆自分は受け入れられており、友人や仲間がいて、愛されていると感じることでしょう。わたしもポーリーンのようになろうと思いました。今でもその思いは変わりません。

扶助協会に熱心に働くようお勧めします。心を込めて働いてください。神から頂いたこの偉大な業を組織し、それに参加し、支持してください。互いを信頼しましょう。発言やレッスン、話し合いを通して、霊的に高め合ひましょう。慈愛や愛を実践してください。割り当てられたからではなく、心から行うのです。

扶助協会は、生活の中で主の愛を感じる、安らぎの場でなければなりません。ここでわたしたちは、家族を強め、慈愛を実践し、聖約を尊ぶことを学びます。神聖な聖約を尊ぶならば、キリストのもとに導いてくれる組織や教会の中であって、その一員であることの価値を理解するようになります。愛する姉妹の皆さん、わたしたちは何とお互いを必要としていることでしょう。■

注

1. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』184
2. 個人的な書簡
3. バージニア・H・ピアース編、*Glimpses into the Life and Heart of Marjorie Pay Hinckley* (1999年)、254-255で引用
4. 『扶助協会』『聖徒の道』1998年7月号、78参照
5. 『教会指導手引き 第2部 神権指導者・補助組織指導者』197参照
6. 『シオンの娘』『賛美歌』195番参照
7. 個人的な書簡
8. 個人的な書簡
9. ボイド・K・バックナー「姉妹の輪」『聖徒の道』1981年4月号、213で引用
10. ジル・マルベイ・ダー、ジャナス・ラッセル・キャノン、マリオン・ウルセンバック・ピーチャー、*Women of Covenant: The Story of Relief Society* (1992年)、336で引用
11. 個人的な書簡



悩みにあって 慰めを受ける

離婚の後、子供たちとわたしは
単純な福音を実践することにより
慰めを見いだしました。

コリーン・M・ペート

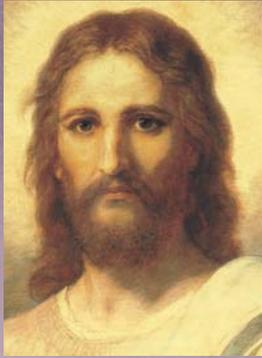
18年間続いた神殿結婚による生活は、別居に次ぐ離婚という形で終わりました。わたしは子供たちとともに、霊的にも精神的にもどうやって生きていけばよいのだろうかと不安になりました。このつらい時期、キリストを中心とした家庭を築く基本的な原則がわたしたちのよりどころとなりました。よく知られている基本的な福音を実践することが、いかにわたしたちを支え、慰め、互いのきずなを強め、救い主の愛をより深く知る助けとなったのかをお話ししましょう。

家庭の夕べがもたらした愛の奇跡

離婚の調停中、そして離婚後、不安の波が我が家に押し寄せてきたとき、家庭の夕べをしようという気持ちは、かつてないほど強くなりました。わたしたちは、全員が参加したかどうかにかかわらず、どんなことがあっても毎週「正式な」家庭の夕べを開きました。

時には家庭の夕べの前にかんしゃくを起こすこともありました。いったん開会の賛美歌が始まると、^{みたま}御霊を感じ、たいていは全員が静かにな





単 純な福音を
実践し、救い主
に頼ることで、
人生のすべての瞬間、
時間、日々の中に強さを
絶えず見いだすことが
できます。

りました。
参加を拒んだ子供たちも、
自分の部屋のドアを開けていました。
子供たちは、賛美歌と祈り、そして聖文の心
地よい響きが部屋に入り、霊的な影響を与
えるのを受け入れていたのです。閉会の賛美歌
を歌い始めるころにピアノのいすから子供た
ちを見ると、全員が一緒に座っていることが
よくありました。預言者の勧告に従うときに
だけ訪れる、愛の奇跡と御霊の証あかしです。

音楽の持つ癒いやしの力

この時期、わたしは一日の終わりにピアノ
の前に座り、片手で好きな賛美歌や初等協会
の歌の旋律を奏でるようになりました。「主
の愛」(Our Savior's Love)や「主が来られ
る時」「救い主の愛」「神の子です」、そのほ
か多くの歌を弾き、必ず「主よ、われと共に」
で終わったのです。この毎晩の習慣は家族に
とって安らぎの時間となりました。一日がど
んな日であっても、母親がピアノの前に座っ
て賛美歌を何曲か弾けば、すべてがうまくい
くか、すべてのことに耐えられるような気が
したのです。

ある日、これ以上耐えられないと感じたわ
たしは、子供たちを家に残し、車の中で思い
切り泣きました。そして落ち着きを取り戻し

て祈った後、家の
中に入りました。ドアを開け
ると、わたしの好きな賛美歌の柔らかい音色
が聞こえました。悩んでいるわたしをなだめ、
慰めるために息子がピアノの前に座り、いつ
もわたしが子供たちにしているように賛美歌
を弾いてくれていたのです。

聖文という欠かせないいかり錨

この試練の中にあって、聖文は霊的な健康
と進歩に欠かせない錨いかりでした。毎日一緒に読
んだわけではありませんが、聖文は日々の生
活と会話に浸透していました。口論あるいは
争いのさなか、また自分たちの選択が正しい
ことを確認したいとき、そして人生の指針が
必要なときには聖典を開きました。感じてい
ることや心配事について話し合った後で、互
いを強めたり、正しいことを確認したり、あ
るいは慰め合ったりするために、よく聖文の
一節や大会の話の一部を分かち合いました。
使い古した標準聖典は、わたしたちの手や心
の一部のようになっていました。

ある晩、わたしはベッドに潜り込み、手を
伸ばして聖典を開きましたが、集中して読む
ことができませんでした。日中は学校に行き、
二つの仕事と宿題を抱え、いつものように
4時間しか寝ていなかったのです。文字どお



り活力を失っていました。わたしはまだ起きて宿題をしていた娘を呼ぶと、聖文を読んでくれるよう頼みました。最愛の娘が優しく尽くしてくれたひときは、何と特別なものだったのでしょうか。娘が何を読んでくれたのかは覚えていませんが、それまで何度も娘にしてきたように、あの晩、わたしに毛布をかけてくれた娘の愛と優しさは、決して忘れません。

祈りがもたらす一致

朝と晩にひざまずいて祈ることにより、わたしたち家族は一つの部屋に集まるだけでなく、霊的にも一つとなることができました。祈りを通して乱れた感情を鎮め、愛を示し、重荷を分かち合い、この世に立ち向かうために再び一丸となることができました。また、祈りによって家族の心が主に向かい、力を合わせることで強められました。一人一人がどんな問題に直面しようと、家族全員が疑うことなく、互いを愛し、支え合っていることを知っていました。そして、できるかぎり助け合おうという気持ちがありました。どうしたらよいか分からなくなったとき、静かに手を差し伸べ、握り合って祈り始めたときのことは忘れません。

このような神聖な祈りの後は、いつも主の愛によって強められた気がしました。友達から仲間外れにされたことや、裁判所でのショックな出来事、経済的な問題など、どんなことにも直面できるように思えたのです。わたしたちは常に前進を続けました。祈りのおかげで前に進むことができたのです。

一瞬一瞬を支える力

試練と変化のときにあって終わりまで堪え忍ぶるかどうかは、その日一日、一時間、そして一瞬を耐えられるかにかかってきます。次にどのような試練や変化を経験するかは分かりません。しかし、単純であっても意義深い福音を実践して救い主に頼ることで、人生のすべての瞬間、時間、日々の中に強さを絶えず見いだすことができると知っています。■

コリーン・M・ペートは、ユタ州ウェストバレーステーク、ウェストバレー第2ワードの会員です。

犠牲では ありませんでした



大きな犠牲に思えるはずですが、神の教会や王国のためにこのような「犠牲」を払うとき、実際は何かを失うのではなく、多くを与えられることを神は御存じでした。

主はこうお教えになりました。「1粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ1粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至るであろう。」(ヨハネ12:24-25) わたしたちはよく、失ったものを犠牲と呼び、増し加えたものを祝福と呼びます。しかし多くの場合、何かを失うとき、それが実際は大きな収穫の始まりなのです。

ある有名な医師が、悲しみに暮れ、意気消沈した一人の老婦人を訪れました。人里離れてたった一人で暮らしていた彼女は、美しい温室を持っており、その中でセントポーリアの花を育てていました。医師は処方箋しよほうせんを書きました。そこには、彼女の所属する教会のニュースレターを定期購読すること、そしてバプテスマや結婚、あるいは病気や葬儀の記事を見つけたら、その度にセントポーリアを送るようにと書かれていました。医師の勧めに従い、この老婦人は何百という花を贈りました。彼女が亡くなったとき、新聞の見出しにはこう書かれていました。「セントポーリアの女

主は教えられました。

「1粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ1粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。」

カサンドラ・リン・ツァイ

若いころのわたしにとって、いちばん大切なのは家族と友達でした。でも、イエス・キリストの福音を見いだしてからは、この最も大切な人たちを失ってしまったように思えました。友達は、知恵の言葉を守って生活し、安息日を尊び、その他の戒めに従おうと努めるわたしをからかいました。学校の友人はつきあってくれなくなりました。両親は最初、バプテスマを受けることを許してくれず、父は口を利いてくれませんでした。若い女の子にとって、家族や友人との良い関係を失うことは、とても

王死去。何千もの人々に惜まれる。」孤独で落胆したこの老婦人を、これほど多くの人から愛される存在にしたのは、一体何だったのでしょうか。それは、持てるものを自分だけにとどめず、人々に分け与えたことでした。

犠牲にしなければならないものが、物ではなく、抱き続けた夢であることもあります。台湾で育ったわたしはイギリスに留学することをいつも夢見ていました。大学の学位を得てアメリカで勉強した後、わたしは故郷に帰り、イギリスで勉強を続ける手続きをしました。同じころ、扶助協会で働く召しを受けましたが、当初はイギリスにたつまでの短期間だけ召しを引き受けるつもりでいました。その後、よく考えた後で海外留学を1年延ばすことにしました。

イギリス留学を「犠牲」にしたこの1年の間に、驚くような祝福を受けました。ある日、教会の掲示板の前を通り過ぎようとしたとき、教会の翻訳部で中国語の役職に就ける人を探していることを知りました。それに応募するよという聖霊の促しを感じましたが、わたしはためらいました。もうすぐ1年が過ぎ、イギリスに留学する時期が間近に迫っていたからです。しかしわたしは、御霊の促しに従ってその仕事に応募し、採用されました。教会の翻訳部で役職に就いて働くことは、わたしにとって単なる仕事ではなく、

大きな特権であり祝福であると感じています。しかし、もしもイギリス留学の夢を自ら進んで犠牲にしなかったら、この祝福は決して受けられなかったでしょう。

わたしたちは、1粒の麦を握り締め手放そうとせずにいて、結局は最後までたった1粒の麦であり続けるのでしょうか。それとも、この1粒の種を地にまいて養うなら実を結ぶことを信じるのでしょうか。友人、所有物、あるいは夢をあきらめることは、確かに試練かもしれませんが、神が備えられた計画への信仰があれば、自信をもって自分の1粒の麦を植え、豊かな収穫が得られると確信することができます。わたしはそのことを経験を通して学びました。■

カサンドラ・リン・ツァイは台湾^{タイペイ}台北中央ステーク、台北第2ワードの会員です。



収穫が得られると信じ、自分の夢を自ら進んで犠牲にしなかったら、この祝福は決して受けられなかったでしょう。

「宣教師を探してきておくれ！」

ルイス・ロベルト・ラモス・デ・サ・フィリオ

1998年のこと、父は重病を患っていました。その1年前には、足をひざのちょうど上の部分から切断しました。その結果、血液の循環に影響を及ぼす様々な問題が生じ、激しい痛みと、重度の感染症が父を悩ました。やがて医師団は、大腿骨、すなわち太ももの骨も一部切断しなければならなくなるだろうという診断を下しました。大きな不安と深い悲しみのうちに多くの日々が過ぎていきました。

わたしが当時住んでいた小さな

町には、父のような深刻な病気に対処できる施設がありませんでした。そのため父は姉の住むブラジルのマリリアにある病院まで行き、そこで幾度も検査を受け、過酷な集中治療に耐えなければなりません。しかし、ありとあらゆる治療を施しても効果はないように思われました。そして、また多くの日々が過ぎていきました。わたしはマリリアに引っ越しをして両親と住むことにしました。家族が一つと

なり、お互いに強め合い、慰め合おうとしたのです。

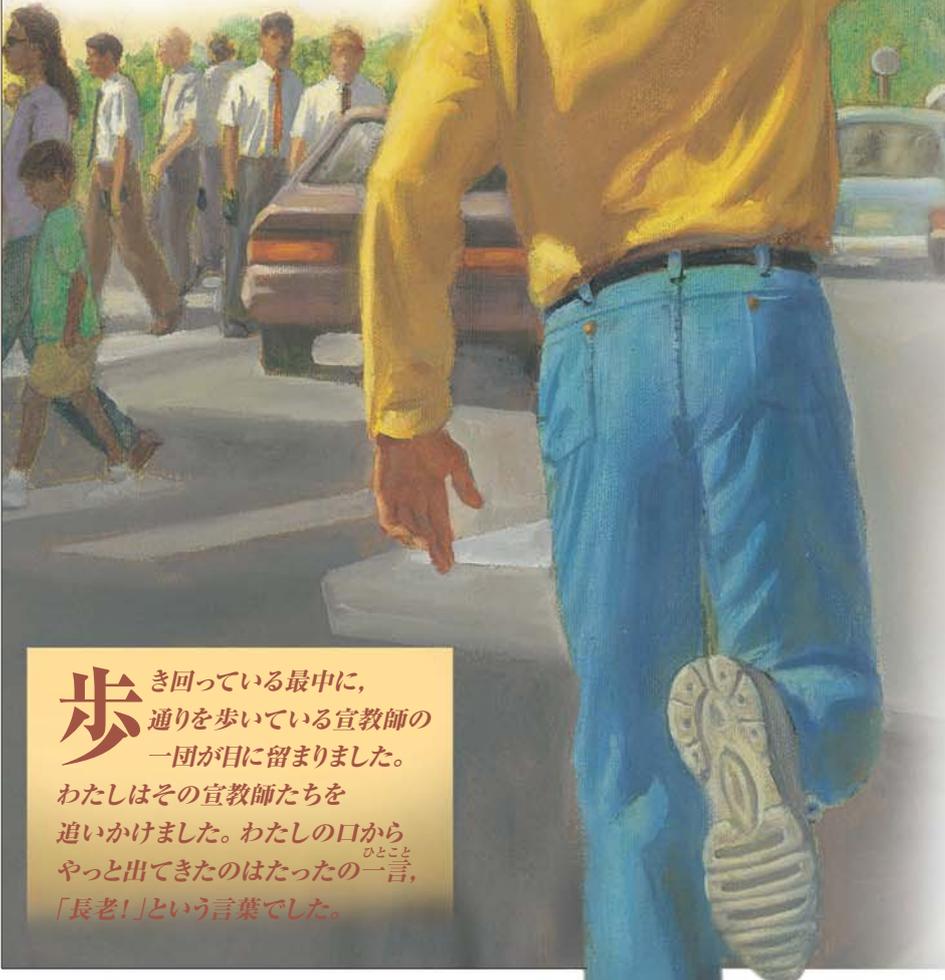
わたしの両親は教会員でしたが、わたしは教会員ではありませんでした。

わたしは教会に敵対的な行動を取ったり、モルモン書の真実性を否定したりしたこともありましたが、そんなわたしが入院中の父を見舞いに行ったときに、父の話すことはいつも決まっていました。「ルイス、宣教師を探してきておくれ！ 祝福が必要なんだ。」わたしは宣教師を探しましたが、見つけることができませんでした。残された時間は少なくなっていました。

手術予定日の前日に、わたしはもう一度父の見舞いに行きました。その日、わたしたち家族の心は不安でいっぱいでした。父がそれまでに受けた治療が何の役にも立たなかったことを知っていたからです。翌日の朝、父はレントゲンの撮影がありました。大腿骨をどこまで切断するかを担当医が判断するためです。

その日、父から頼まれたことはいつもと違っていました。父はベッドに腰かけて、義足を付けていました。病院の廊下を母と一緒に散歩し、その日の朝に手術を受けた友人たちの安否を尋ねるためでした。父は立ち上がるところ言いました。「ルイス、水を少し買ってきてくれないか。」

わたしはすぐさま階段を駆け下り、瓶入りの水を探そうと病院の外に出ました。ところが、歩き回っている最中に通りを歩いている宣教師の一団が目にとまりました。水のことは忘れて、わたしはその宣教師たちを追いかけまし



歩き回っている最中に、通りを歩いている宣教師の一団が目にとまりました。わたしはその宣教師たちを追いかけました。わたしの口から、やっと出てきたのはたったの一言、「長老！」という言葉でした。

た。わたしの口からやっとなって出てきたのはたったの一言、「長老！」という言葉でした。宣教師たちは立ち止まり、わたしは何とか父の置かれた状況を説明することができました。

その日の遅く、母とわたしが病院を立ち去ろうとしていたときに、アルベス長老とその同僚が父を訪ねてやって来ました。そしてその夜、父から電話がありました。父の話では、伝道部長も来てくれたとのことでした。父はやっと念願の祝福を受けることができたのでした。

わたしたちは翌朝撮るレントゲン写真の結果についてあれこれ思い巡らしながら一夜を過ごしました。そうは言っても、不思議と安堵感がありました。

翌朝、わたしたちは1本の電話のベルで目を覚ましました。父からの電話でした。「迎えに来てくれ」と父は言いました。「退院できるんだよ。」わたしたちは喜びで圧倒されそうでした。父は、自分を診察した医者も看護婦も何が起こったのか理解できなかったと話してくれました。「昨晚、一体何をしましたか。レントゲン写真に少しも異常が見当たりませんし、骨もまったく正常です。」

あの日のことを思い出すと、神権が現実的な力であり、再びこの地上に回復されたということをますます強く感じます。あの日から3か月とたたないうちに、わたしは証を得、バプテスマを受けました。後にわたしはブラジルのリオデジャネイロ北伝道部で専任宣教師として働き、自分の証と自分がこよなく大切に思っていることを人々に伝えました。■

ルイス・ロベルト・ラモス・デ・サ・フィルヨは、ブラジル・ボトゥカトゥ地方部アバレー支部の会員です。

わたしたちの生活を 変えた「永代教育基金」 の融資

キム・シトラルピリ・サンチェス・
アルダナ・カマチョ

わたしは医学の分野の研究に携わるのが夢でした。また、宣教師時代には、主がその子供たちに達成してほしいと望んでおられることには必ず主御自身により備えられた達成への道があるということ学びました。

伝道から帰還して間もなく、わたしはインスティテュートでファビオラという名の若い女性に巡り会いました。わたしたちはデートをするようになり、やがて深く愛し合うようになりました。聖霊の確認もあって、わたしは彼女に自分の永遠の伴侶となってくれるよう求めるべきだと感じました。わたしは結婚を申し込み、彼女は承諾してくれました。しかし、二人で将来の計画を立てているうちに、わたしの少ない給与では日常生活を送るのに必要な物を賄い切れないということが分かってきました。ファビオラは、

人々の健康と生活の向上に
役立てることに喜びを
感じました。

夢が現実となったのです。

わたしが学校を卒業するまでのしばらくの間、わたしを経済的に支えるために仕事を続けてもかまわないと言ってくれました。しかし、その方法では自立するまでにかなりの時間がかかります。それに、二人とも子供が欲しいと願っていました。そこでわたしたちは天の御父に助けを祈り求めました。御父の御心を行おうと思いました。

伝道期間中、わたしはゴードン・B・ピンクレー大管長が「永代教育基金」について話すのを聞いたことがありました。インスティテュートで「永代教育基金」プログラムに関する集会が開かれたときに、帰還宣教師として何回か出席したこともありました。そのとき耳にしたことから新たな展望が広がり、希望に胸はふくらみました。それがわたしたちの将来の家族生活向上に役立つプログラムだということが分か



ったからです。そこでわたしはファビオラと相談し、自分の教育に関する目標を設定しました。

わたしは理学療法を学ぶことにしました。「永代教育基金」の申し込み用紙への記入はしばらく様子を見てからとわたしは考えましたが、フィアンセのファビオラは今すぐにでも実行に移した方がよいと勧めてくれました。融資申し込み用紙を提出したのは2001年12月のことでした。ファビオラとわたしがメキシコシティー神殿で結び固めを受けたのもちょうど同じ月の12月22日でした。融資は2002年1月に認可されました。それから間もなくして、わたしの学校生活が始まりました。

ある日のこと、学費を納入していたときに、わたしは学校のディレクターに会って話す機会がありました。その話の中で、わたしは自分が末日聖徒イエスキリスト教会の会員であることについて触れ、「永代教育基金」についても説明しました。ディレクターは末日聖徒の知り合いが何人かいるが、その人たちは皆善良な人たちだと言いました。末日聖徒の学生を教えたこともあるということでした。

授業に出席するようになって1か月がたったころにその同じディレクターが、受講数を2倍に増やすことで専攻科目を早く終了し、24か月ではなく14か月で卒業するようにと勧めてくれました。わたしは融資を更新する翌年まで次の授業料を納めることはできないと事情を説明しましたが、末日聖徒であるということでわたしの言葉を信頼してくれたのです。そのようなわけで、わたしはまたしても祝福を受けることができました。わたしは受講数を増やすことにしました。もちろん学習量も授業時間数も増やさなければなりません。その間、アルバイトも続けました。

勉学の日々が過ぎていく中で、知識を増し加えるという方法によって主が

祝福を与えてくださっていることに、驚きの目を見張りました。実地訓練の一環として、腰痛、脊柱側弯症、ねんざ、座骨神経痛、頸痛などに悩む人々を助ける機会がありました。リハビリテーション療法を用いて人々の健康と生活の向上に役立てることに喜びを感じました。夢が現実となったのです。

今、すべては順調に運んでいます。わたしは現在ホームワードで長老定員会会長として働いています。独立開業のために必要な手続きは、2003年4月の卒業までに、すべて済ませることができました。しかも、ファビオラとわたしの間には第1子が誕生することになりました。

わたしは、主が「永代教育基金」を設立されたこと、このプログラムが人の自立に役立つことを知っています。新しい仕事のおかげで、以前よりもっと家族の必要を満たし、教会で奉仕し、周囲の人々の生活を祝福することができるようになりました。また、大学でさらに進んだ学問の追求ができるようになりました。

教会と「永代教育基金」のおかげで、わたしたちの生活には変化がもたらされました。啓示によって与えられたこのプログラムに従うことによって、多くの若人の人生が変わることを知っています。■

キム・シトラルピリ・サンチェス・アルダナ・カマチョは、メキシコ・メキシコシティー・ピラ・デ・ラス・フロレスステーク、ラスロサスワードの会員です。

くらやみ 暗闇の中を二人だけで

トリサ・マーチン

時 としてわたしたちは、困難な経験を通して初めて、主に頼る者は試練の中であって支えられるということに気づきます(アルマ36:3参照)。

この原則がわたしの心に深く刻み込まれたのは、数年前、わたしたち家族

が北アフリカのチュニジアに7か月間滞在したときのことで。夫は当時この国で博士号取得のための研究を行っていました。かなり限られた予算内で生活しなければならない苦学生だったので、家には電話もテレビもありませんでした。首都チュニスの郊外に位置するエルメンザの小さなアパートの5階にわたしたちは住んでいました。ですから、わたしたちの日課は単純なものでした。夫のキースは国立図書館で研究し、わたしは息子のデビッドとともに自宅で過ごす毎日でした。

教会について言えば、チュニスではわたしたちが教会そのものでした。毎週日曜日になると、キースが聖餐を執行し、二人で聖文を読みました。また、好きな賛美歌を歌い、総大会のテープを聞き、キースの神権会テキストを使ったレッスンで終わりました。

わたしたちはすばらしい人々に巡り会い、良い友人にも恵まれました。それでも時として孤独や恐怖を感じることもあり。例えばある日のこと、買い物から帰宅すると電気がつきません。薄くて青い封筒が1通ドアの下に押し込まれていました。その封筒の中にフランス語とアラビア語で書かれた通知が入っていました。キースが帰宅したときに翻訳してもらいました。以前の借家人たちが電気代を納めていなかったで、その滞納分をわたしたちに要求してきたのです。愕然としました。支払いが済むまでは、電気もつかないということでした。

週末はろうそくをともして過ごしました。そして月曜日、二人でバスに乗り電気会社へと向かいました。支払いを終えたわたしたちに電気会社は、2日以内に電気がつくと約束してくれました。

しかし、2日でほんとうに大丈夫だろうかと思いました。そのとき、わたしはキースの夜間授業が火曜日に入っていることを思い出しました。奨学金を打

ち切られないために、その授業には必ず出席しなければなりません。つまり、わたしはひょっとしたら小さなデビッドと暗闇の中を二人だけで過ごさなければならなくなるかもしれないのです。ただでさえ夫不在で取り残されるのは大変なのに、もし万が一にも、たった数本のろうそくだけで暗闇の中をずっとデビッドと二人で過ごす羽目になったらどうしようと考えました。そのことを考えるだけでぞっとしました。

月曜日が過ぎても、まだ電気はつきませんでした。火曜日の午後、キースが学校から戻って来ましたが、電気会社のスタッフはまだ来てくれませんでした。わたしたちは自分たちに何ができるか話し合いましたが、その結論として、キースがこう言いました。「祈るしかないと思う。」

心からへりくだり、わたしたちは助けを祈り求めました。祈り終わると、キ-

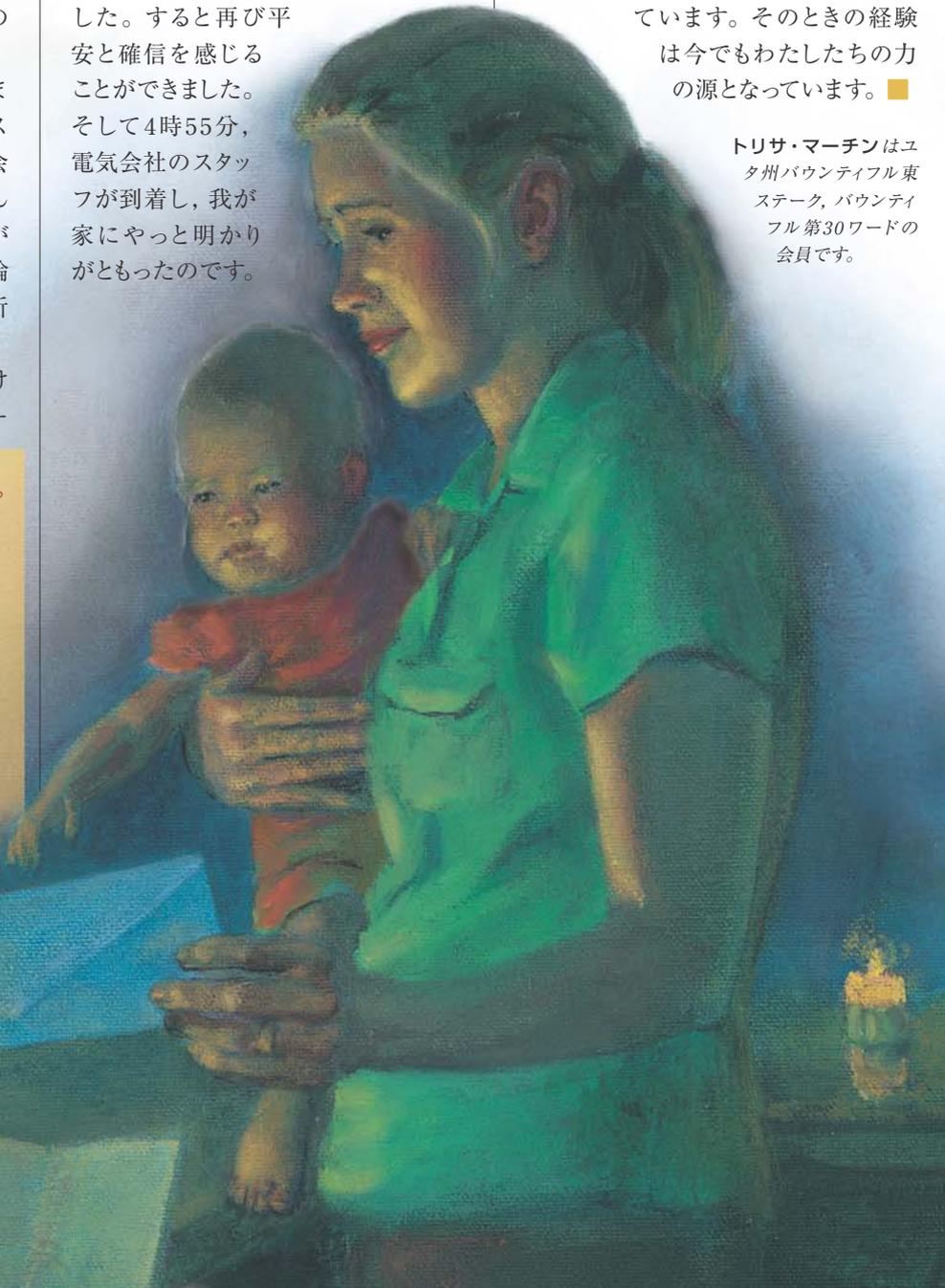
スはわたしを抱き締め、こう言いました。「すべてはうまく行くよ。夜になったら電気はついているから。」

そこまで言われてもまだ電気がつくとは思えませんでした。ただ、キースの信仰だけが頼みの綱でした。しかし、実は、午後4時45分まで、わたしの心は疑いの気持ちでいっぱいでした。わたしは静かに祈りをささげました。すると再び平安と確信を感じることができました。そして4時55分、電気会社のスタッフが到着し、我が家にやっと明かりがともったのです。

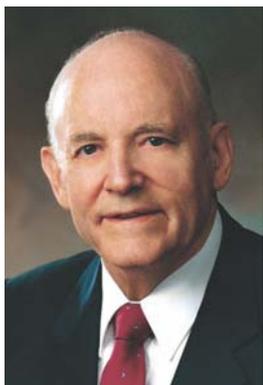
このような様々な経験を通してわたしの信仰は深まり、自分は独りぼっちではないということが分かってきました。チュニジアでの滞在期間中、わたしは幾度となく祈りの力に頼りました。天の御父がわたしたちを見守り、気遣い、愛してくださったことに感謝しています。また、チュニジアで家族として信仰を築く経験があったことに感謝しています。そのときの経験は今でもわたしたちの力の源となっています。■

トリサ・マーチンはユタ州バウンティフル東ステーク、バウンティフル第30ワードの会員です。

帰 宅すると、電気がつきません。薄くて青い封筒が1通ドアの下に押し込まれていました。その封筒の中にフランス語とアラビア語で書かれた通知が入っていました。



神殿に 心を向ける民



第14代大管長
ハワード・W・ハンター
(1907-1995年)

**主は
神殿が教会員にとって
偉大な象徴であること
を啓示の中で
明らかにされました。**

末日聖徒は世の人々に福音を宣言しています。それは全人類の贖いのため、この神権時代に地上に回復されたままの、イエス・キリストの福音です。主御自身が人の救いと昇栄にとって不可欠な事柄を明らかにされたのです。その一つは、ほかのいかなる場所でも執行されない儀式を行うために神殿が建てられるということです。

世界中から訪れ、神殿に目を注ぐ人々にこのことを説明する度に、いちばんよく聞かれるのが、「神殿で執行されるその儀式とはどのようなものですか」という質問です。

それに答えて、わたしたちはよく、死者のためのバプテスマとして知られる儀式から説明を始めます。多くのクリスチャンは、人は死んだときに、永遠に続く来世で主の前にはどのような状態になるかが決定されると信じています。確かにキリストはニコデモにこう言われました。「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5)しかし、バプテスマの儀式を受けずにこの世を去って行った人々は数多くいます。そして、

キリストがニコデモに話された言葉によると、そのような人々は神の王国に入ることを許されないのです。これは、神はそれで公正と言えるだろうか、という疑問を人々の心に抱かせます。

もちろん神は公正な御方です。救い主がニコデモに話された言葉が、バプテスマを受けることなくこの世を去った人々のためにバプテスマが行われることを前提にしているのは明らかです。末日の預言者たちは、バプテスマは地上で行う儀式であり、それを執行できるのは生者だけであると教えています。では、生者だけがその儀式を執行できるとすれば、どうして死者がバプテスマを受けられるのでしょうか。それは、使徒パウロがコリント人に書き送った手紙の主題でした。その中で彼は次のように問いかけています。

「そうでないとすれば、死者のためにバプ

**1835年秋ごろの光景を表した絵。
末日聖徒の最初の神殿であるカートランド
神殿において、窓をはめ込もうとする
ジョセフ・ヤングとブリガム・ヤング(上)に
手を貸す預言者ジョセフ・スミス(中央)。
オリバー・カウドリ(左)とシドニー・リグドン
(右)も神殿建設の準備に携わった。**



人 **のために行う**
この業は、次の
二つのステップ
を踏んで達成されます。
最初に、家族の歴史を
調べ、自分の先祖の
名前を明らかにします。
そして次に、生者に
与えられているのと同じ
機会を提供するために、
神殿の儀式を行います。



テスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらなとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。」(1コリント15：29)

事実、キリスト教の歴史を調べてみると、初期のクリスチャンたちが死者のためのバプテスマを行っていたことが分かります。当時、死者のために身代わりの儀式が行われていたのです。そして、それは今も行われています。確かに、身代わりの儀式は決して新しいものでも不可思議なものでもないのです。わたしたちは、救い主御自身が身代わりとして全人類の罪を贖われたことを覚えています。現在、生者によって死者のためのバプテスマが再び行われています。同じように死者のために聖霊の賜物を授けるための按手も行われています。しかし、死者のためにこれらの儀式を行えるのは、主の宮においてだけです。

神殿ではまた、エンダウメントの儀式も行われています。この儀式は二つの部分に分かれています。一つは一連の教えを受ける部分であり、もう一つは、エンダウメントを受ける人が交わす約束すなわち聖約の部分です。つまり義になかった生活をし、イエス・キリストの福音の教えに従って行動することを約束します。エンダウメントは生死を問わず聖徒たちに大いなる祝福を授けるための儀式です。つまり、エンダウメントも

また死者に代
わって生者
が行う

儀式であり、すでに身代わりのバプテスマが済んでいる死者を対象に執行されます。

神殿で行われるもう一つの儀式に、夫婦を永遠に結び固める日の栄えの結婚の儀式があります。言うまでもなく、民事結婚は死をもって終わります。しかし、神殿で行われる永遠の結婚は、永続するのです。永遠の結婚をした夫婦の間に生まれた子供は、自動的に両親と永遠に結び固められます。夫婦の結び固めが行われる前に生まれた子供については、親子を永遠に結ぶ力を持つ神殿の結び固めの儀式が行われます。同様に、子供は身代わりの儀式によって、すでに世を去った両親との結び固めを受けることができます。

神殿の儀式によって、永遠の家族の基が正しく築かれるのです。この教会には、社会の基盤である家庭を守り保護する責任と権能があります。

神権によって執り行われるこれらの神殿の儀式はすべて、天の御父の子供たちの救いと昇栄に欠くことのできないものです。

教義と聖約第137章には、カートランド神殿で預言者ジョセフ・スミスに授けられた示現が記録されています。この示現の中で、ジョセフ・スミスはすでに世を去っていた兄アルビンと、両親を見ました。主の声が彼に臨み、こう言われました。「この福音を知らずに死んだ者で、もしとどまることを許されていたらそれを受け入れたであろう者は皆、神の日の栄えの王国を受け継ぐ者となる。」(教義と聖約137：7)

第138章には、ジョセフ・F・スミス大管長〔1838-1918年〕に与えられた神聖な現れが記録されています。これも死者の贖いの業について述べています。スミス大管長は主が霊界を訪れられたことに思いを巡らしながら、ペテロの第一の手紙を読み、次の聖句について深く考えていました。「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。」(1ペテロ4：6)

そのとき、一つの示現がスミス大管長に開かれました。次のように記されています。



「わたしは、主が悪人や真理を拒んだ不従順な者を教えるために彼らの中へ自ら行かれたのではないことを知った。

見よ、主は義人の中から軍勢を組織し、力と権能をまとった使者たちを任じて、暗闇の中にいる者たち、すなわちすべての人の霊のもとへ行って福音の光を伝えるように彼らに命じられた。このようにして、福音が死者に宣べ伝えられたのである。」（教義と聖約 138：29-30）

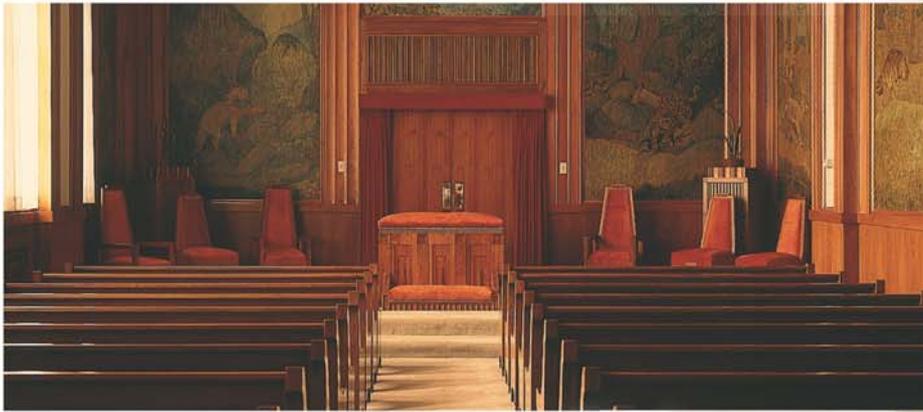
確かに、わたしたち現世にいる者には、成し遂げるべき大いなる業があります。神殿の儀式に関する以上のようなことから、神殿の

す。そして次に、生者に与えられているのと同じ機会を提供するために、神殿の儀式を行います。

すでにこの世を去った人々は、末日聖徒が自分たちの名前を調べ、自分たちの代わりに神殿へ行って儀式を受けるようにと切望しています。それによって、彼らは霊界の獄から開放されることのできるのです。

自分自身の祝福のために神殿に参入する特権を受けるのは、何とすばらしいことでしょうか。そして、自分自身の祝福のために神殿に参入してから後に、すでに世を去った人々のために働きをなす特権も実にすばらしいも

神殿の
神バプテスマ
フォントは、
イスラエルの部族を
表す牛の背に
据えられています。
今日バプテスマは、
生者が死者に代わって
これらのフォントで
行います。

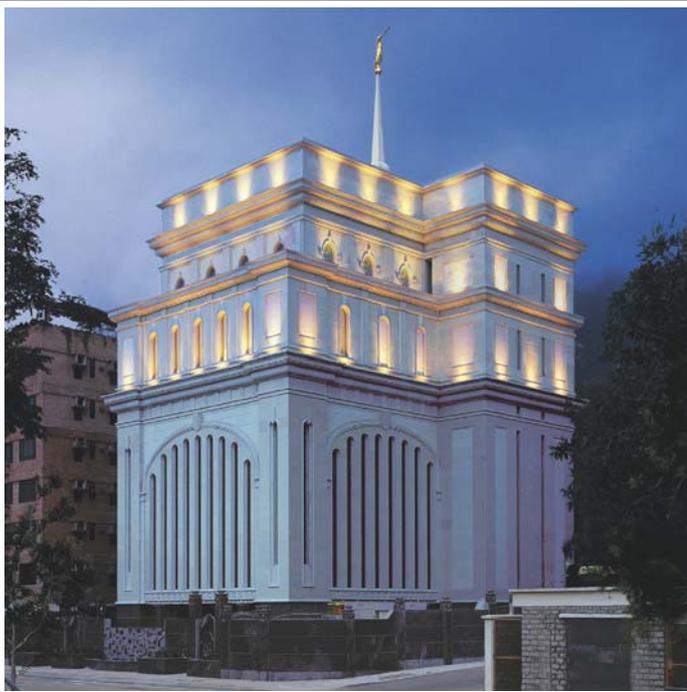


**神殿ではまた、エンダウメントの儀式も行われています。
この儀式は二つの部分に分かれています。
一つは一連の教えを受ける部分であり、もう一つは、
エンダウメントを受ける人が交わす約束すなわち聖約の部分です。
つまり義にかなった生活をし、イエス・キリストの
福音の教えに従って行動することを約束します。**

建物はわたしたち自身にとって、また全人類にとって深い意味を持つことが分かります。また、わたしたちの責任も明らかになってきます。わたしたちは自分自身の救いに必要な、神権による神殿の儀式を行わなければなりません。そして次に、現世において福音を受け入れる機会にあずからなかった人々のために、必要な業を行わなければならないのです。人のために行うこの業は、次の二つのステップを踏んで達成されます。最初に、家族の歴史を調べ、自分の先祖の名前を明らかにしま

ので
す。神殿
活動のこ
の部分
は、無私
の働きによ
てなされます。しかし、ほかの
人のためにこの神殿活動を行う
と、わたしたち自身のもとに必ず
祝福が返ってきます。
ですから、主がわ





たしたちに神殿に心を向ける民となるよう望んでおられるのは驚くに当たりません。

会員の偉大な象徴

主は神殿が教会員にとって偉大な象徴であることを啓示の中で明らかにされました。カートランドで聖徒たちが神殿を建設する準備をしていたとき、主は預言者ジョセフ・スミスを通して一つの勧告をお与えになりました。その勧告から、主がわたしたちに求めておられる態度と義にかなった行いについて考えてください。この勧告は現在も生きています。

「あなたがた自らを組織しなさい。すべての必要なものを用意しなさい。そして、一つの家、すなわち祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、栄光の家、秩序の家、神の家を建てなさい。」(教義と聖約88：119) わたしたちはこのような姿勢と行動を望み、求めているのでしょうか。

この末日にイエス・キリストの福音が回復されるまでの長い背教の時代に、旧世界と新世界のいずれにも神殿が建てられたという記録はありません。神殿の儀式を執行するためになくはならない神権は地上に存在しませんでした。神の命令によって再び神殿が建設されたのは、まさしくその目的のために立てられた主の預言者を通して福音が回復され、末日聖徒イエス・キリスト教会が設立された後のことでした。

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老[1915-1985年]はこのように述べています。

「神殿が靈感によって建設され、正しく使用されていることは、主の業が神の業であることを示す偉大な証拠なのです。……神殿があり、その中で儀式を施す人々のうえに

啓示の霊がある所には、主の民がいます。それがない所には、教会も王国も天の真理もないのです。」(Mormon Doctrine, 第2版[1966年], 781)

主がわたしたちに与えられた神殿に関連する約束について幾つか考えてみましょう。これらの約束を受けるために、どのような生活をしなければならないかを考えてください。

「また、わたしの民が主の名によってわたしに一つの家を建て、それが汚されないように、何であろうと清くないものがそこに入るのを許さなければ、わたしの栄光はそのうえにとどまるであろう。

まことにまた、わたしはそこにいる。わたしはそこに来るからである。そして、そこに入って来る心の清い者は皆、神を見るであろう。

しかし、もしもそれが汚されるならば、わたしがそこに来ることはなく、わたしの栄光はそこにはない。わたしは清くない神殿には来ないからである。

さて見よ、シオンがこれらのことを行うならば、シオンは栄え、自らを広げ、非常に栄光に満ちた、きわめて大いなる、そして甚だ恐ろしいものとなるであろう。

そして、地のもろもろの国民はシオンを尊び、言うであろう。『確かにシオンは我々の神の都であり、また、確かにシオンは倒れることも、その場所から移されることもあり得ない。神がそこにおられ、主の御手がそこにあるからである。』

主はシオンの救いとなりシオンの高いやぐらになると、その強い力によって誓われた。』

それゆえ、主はこのように言う。まことに、シオンを喜ばせなさい。心の清い者、これこそシオンである。それゆえ、シオンを喜ばせなさい。一方、悪人は皆嘆き悲しむであろう。」(教義と聖約97：15-21)

わたしたちは一つの民として何とすばらしい約束を受けているのでしょうか。個人、家族、民として、主の前に心の清い者という名で呼ばれるとは、何と意義深い象徴でしょうか。

カートランド神殿の偉大な奉獻の祈りの中にある崇高な教えを深く考えてください。預言者ジョセフ・スミスはそれが啓示によって与えられた祈りであると述べています。主が聖なる神殿において行使するために与えられた神権の力のゆえに、わたしたちが個人として、家族として、民として祝福を絶えず受けるよう求めた祈りです。

預言者ジョセフ・スミスはこのように嘆願しました。「さて、聖なる御父よ、何とぞ、……あなたの民であるわたしたちをあなたの恵みをもって助け、……わたしたちに

下された啓示の中であなたの民であるわたしたちに与えてくださった約束を果たすのがふさわしいと、あなたの目になんて認めていただけるよう……にしてください。

これによって、あなたの栄光があなたの民のうえにとどまり〔ますように。……〕

聖なる御父よ、何とぞ、あなたの僕たちがこの宮からあなたの力を帯びて出て行けますように。あなたの御名が彼らのうえにあり、あなたの栄光が彼らの周りにあり、あなたの天使たちが彼らに対する務めを果たしますように。

彼らがこの場所から地の果てまで、真理にかなって、きわめて大いなる栄えあるおとずれを携えて行き、それによって人々が、これがあなたの御業であることを知り、またあなたが終わりの時に関して、預言者たちの口を通して語られたことを成就するために御手を伸べられたことを知ることができますように。……

何とぞ、あなたが定められたこのステーキのほかに、……他のステーキも定めてくださり、それによって、あなたの民の集合が大いなる力と尊厳をもって進んで、あなたの業が義にかなって短くされますように。……

また、イスラエルの散らされた残りの者で、地の果てに追い出された者が皆、真理を知るようになり、メシヤを信じ、虐げから贖われ、あなたの御前で喜ぶように。……

おお、主よ、あなたのすべての教会員を、そのすべての家族、ならびにそのすべての近親者とともに、そのすべての病気の人、ならびに苦しんでいる人とともに、また地のすべての貧しい人、ならびに柔和な人とともに思い起こしてください。それによって、あなたが人手によらずに設けられた王国が、大きな山となって全地に満ちますように。……

死者のためにラッパが鳴り響くとき、わたしたちが雲の中に引き上げられ、あなたにまみえて、いつも主とともにいられるようになりますように。」(教義と聖約109：10-12, 22-23, 59, 67, 72, 75)

これほど感動的ですから素晴らしい約束を受けた

民がかつてあったでしょうか。主に従う者たちが主の模範と神殿に全身全霊を傾けるよう主が望んでおられることは、間違いありません。主が聖なる宮において「わたしは憐れみをもってこの家でわたしの民にわたし自身を現すであろう」と言われたのも驚きに値することではありません(教義と聖約110：7)。

福音を宣べ伝え、聖徒を完全な者とし、死者を贖うためにわたしたちがささげるあらゆる努力は聖なる神殿に通じているのです。それであるからこそ、神殿の儀式は絶対に必要であり、わたしたちは神殿の儀式なしに神の前に戻ることはできないのです。

主はまことに、主の民が神殿に心を開ける民となるよう望んでおられます。わたしはすべての教会員が神殿に参入するにふさわしく、たとえ距離的な問題ですぐには神殿に参入できなくても、あるいはしばしば参入できなくても、有効な神殿推薦状を得るにふさわしくなるよう、また推薦状を所持することを望みます。

神殿に参入し、神殿を愛する民となろうではありませんか。時間と金銭と個人的な状況が許

神 殿に参入し、
神殿を愛する
民となろうでは
ありませんか。
時間と金銭と個人的な
状況が許さざり、
しばしば神殿に
足を向けようでは
ありませんか。
亡くなった親戚のため
だけでなく、
神殿の礼拝によって
自ら祝福を受け、この
神聖かつ聖別された
建物の中で与えられる
聖めと守りを受ける
ために参入しようでは
ありませんか。



神殿で味わう 霊的な思いを 子供たちに

伝えてください。

より熱心に、またもっと
和やかな雰囲気の中で、
主の宮が建てられる

目的について、
話しても差し障りのない
事柄を子供たちに

教えるようにしましょう。

子供たちの目に触れる

ように、家の中に

神殿の写真を

飾ってください。

すかぎり、しばしば神殿に足を向けようではありませんか。亡くなった親戚のためだけでなく、神殿の礼拝によって自ら祝福を受け、この神聖かつ聖別された建物の中で与えられる聖めと守りを受けるために参入しようではありませんか。神殿は美しい場所です。啓示を受ける場所であり、平安を受ける場所です。そこは主の宮です。主に聖さをささげる所です。わたしたちにとって聖なる場所です。

神殿で味わう霊的な思いを子供たちに伝えてください。より熱心に、またもっと和やかな雰囲気の中で、主の宮が建てられる目的について、話しても差し障りのない事柄を子供たちに教えるようにしましょう。子供たちの目に触れるように、家の中に神殿の写真を飾ってください。そして主の宮が建てられる目的について教えてください。神殿の祝福を受けるふさわしさを身に付け、神殿に参入する計画を、幼いうちから立てさせてください。

青少年がふさわしさをもちて神殿に行き、生きている間にバプテスマを受ける機会がなかった人々のために身代わりのバプテスマを受けることを主は喜ばれます。わたしたちが主と自分との間で聖約を交わし、また夫婦として、家族として結び固めを受けるために、ふさわしい状態で神殿に参入することを主は喜ばれます。さらに、これらの救いの儀式を死者に代わって受けるために、ふさわしく神殿に参入すること

すかぎり、しばしば神殿に足を向けようではありませんか。亡くなった親戚のためだけでなく、神殿の礼拝によって自ら祝福を受け、この神聖かつ聖別された建物の中で与えられる聖めと守りを受けるために参入しようではありませんか。神殿は美しい場所です。啓示を受ける場所であり、平安を受ける場所です。そこは主の宮です。主に聖さをささげる所です。わたしたちにとって聖なる場所です。

を主は喜ばれます。死者の多くは自分たちのために儀式が執行されるのを今や遅しと待っているのです。

わたしたちにとって神殿を真の意味での象徴とするには、そのような状態になることを望まなければなりません。神殿に入るにふさわしく生活しなければなりません。主の戒めを守らなければなりません。主に倣って生活し、主の教えと模範を自分にとって至高の規範とすることができれば、神殿に参入するためのふさわしさを身に付け、人生のあらゆる面で首尾一貫した誠実な生活を送ることはさほど難しいものではなくなります。なぜならば、ただ一つの神聖な標準に基づいて行動し、一つの標準だけを信じると心に決めているからです。家庭にいても、あるいは職場にあっても、学校にいても、あるいは学校を卒業してから長い年月が過ぎ去っていても、まったく一人で行動していても、あるいは多くの人々と交わっていても、わたしたちの歩むべき道は明快であり、標準は明らかです。

原則を忠実に守り、教えに従って高潔さと信仰をもって生活する力をつけること、これが最も大切なのです。個人の生活において、家庭において、家族の間において、ほかの人々に出会い、影響を与えるあらゆる場所において、真の原則から決して離れないこと、神がわたしたちに最終的に要求しておられるのはこの献身です。そのためには、神が戒めの中で与えられ、わたしたちが真実であると知っている原則を心の底から、永遠に慈しむという決意が必要です。主の原則に誠を尽くし、忠実であるならば、常にふさわしい状態で神殿に参入することができます。そして主と主の聖なる神殿はわたしたちが主の弟子であることの大きい象徴となることでしょう。■

本記事の原文については、『聖徒の道』1994年10月号、2-7を参照

大管長会からの手紙

以下の手紙は、2003年3月11日付けで、^{せいさん}聖餐会で読み上げていただくために、大管長会から神権指導者に送られたものです。

「わたしたちは利用可能な神殿が世界中で増加していることに感謝するとともに、成人会員の皆さんが有効な神殿推薦状を保持し、いっそう頻繁に神殿に参入するようお勧めします。時間と状況が許す場合には、余暇の活

動の幾分かを神殿での奉仕に向けてくださるようお願いいたします。

わたしたちの数知れぬ先祖は、神殿の儀式の恩恵にあずかることなく地上での生涯を送りました。わたしたちは比較的新しい会員および12歳以上の青少年がふさわしく生活し、バプテスマと確認の儀式の代理人として奉仕することにより、この偉大な業を支援するよう特に奨励します。

地元の神権指導者の皆さんは、神殿推薦状を持つ

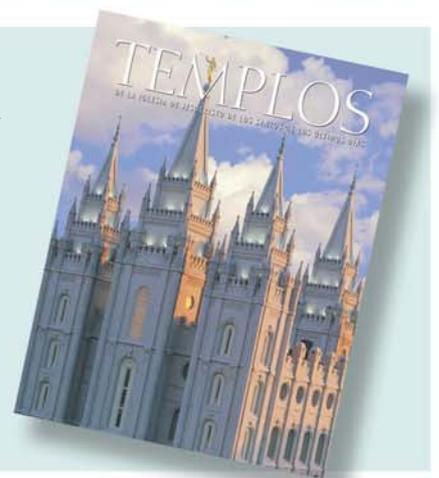
ふさわしい会員たちに、もっと頻繁に日中の神殿参入を行う方法を考えるよう励ましてください。ホームティーチャーと訪問教師は、交通手段を必要としている人、特に日中の参入者のために配車等の援助をするとよいでしょう。

主の宮で執り行われるすべての儀式は、人の魂が不死不滅であるという根源的、基本的な教義へのわたしたちの信仰を体現するものとなります。神殿に参入する努力と忠実さを増し加えるとき、主はわたしたちを祝福してくださるでしょう。」■



配送センターからのお知らせ

『末日聖徒イエス・キリスト教会の神殿』（アイテム番号35863 300）が、多くの言語で入手可能になっているのを御存じでしたか。この冊子は、神殿に関する有用な情報を教会員に提供し、神殿の大切さを教えるために出版されました。この冊子は、親が子供に神殿について教える際に活用したり、初めて神殿に参入する計画を立てている会員が、神聖な聖約と儀式を受ける準備をするのに役立てたりすることができます。注文方法や価格については、教会管理本部配送センター、またはワード・支部の指導者にお問い合わせください。



夫婦の写真/スティーブ・ハンダーソン、写真はイメージです。フロリダ州オーランド神殿の写真/マーク・A・フィルブリック

御存じでしたか？



末日の預言者のバプテスマ

末日聖徒イエス・キリスト教会の集会所内のフォントでバプテスマを受けた最初の大管長は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長だということを御存じでしたか。ほんとうですよ。ヒンクレー大管長は、1919年4月28日、ソルトレーク・リバティーステーク第1ワードでバプテスマを受けました。その他14人の大管長のバプテスマにまつわる興味深い記録をご紹介します。

大管長の名前	バプテスマの日	場所
ジョセフ・スミス	1829年5月15日	ペンシルベニア州ハーモニー近くのサスケハナ川
ブリガム・ヤング	1832年4月14日	ニューヨーク州メンドン近くの車水用貯水池
ジョン・テラー	1836年5月9日	カナダのオンタリオ州トロント近くの小川
ウィルフォード・ウッドラフ	1833年12月31日	ニューヨーク州リッチランド近くの冷たい、氷の張った小川
ロレンゾ・スノー	1836年6月19日	オハイオ州カートランド、シャグリン川
ジョセフ・F・スミス	1852年5月21日	ユタ州ソルトレークシティ、シティークリーク
ヒーバー・J・グラント	1864年6月2日	ユタ州ソルトレーク・シティ、 ^{ほろ} 馬車の荷台
ジョージ・アルバート・スミス	1878年6月6日	ユタ州ソルトレーク・シティ、シティークリーク
デビッド・O・マッケイ	1881年9月8日	ユタ州ハンツビル近くのスプリングクリーク
ジョセフ・フィールディング・スミス	1884年7月19日	ユタ州ソルトレーク・シティ、シティークリーク(推測)
ハロルド・B・リー	1907年6月9日	アイダホ州クリフトン近くのバイビー池
スペンサー・W・キンボール	1903年3月28日	アリゾナ州サッチャーの熱処理用おけでバプテスマを受けたが、儀式の方法が不適切だったのではないかと懸念から、後に同じくアリゾナ州サッチャーのユニオン運河でバプテスマを受け直した。(訳注「熱処理用おけ」—熱湯を沸かし、屠殺した家畜をひたして毛を取り除くためのおけ。キンボール家ではこれを浴槽として使用していた。)
エズラ・タフト・ベンソン	1907年8月4日	アイダホ州ホイトニー、ローガンリバー運河
ハワード・W・ハンター	1920年4月4日	アイダホ州ポインの屋内水泳プール

ハワード・W・ハンター大管長、スペンサー・W・キンボール大管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、エズラ・タフト・ベンソン大管長の少年時代の写真/末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管庫の厚意により掲載。グランデン印刷所で使用された印刷機(復元)の写真——「扶助協会の創立」テール・キルボーン画

それは3月の出来事でした

教会歴史の中で3月に起こった重要な出来事をいくつか紹介します。

1830年3月26日——ニューヨーク州パルマイラでE・B・グランデンによってモルモン書の初版が印刷され、一般の人々も入手できるようになりました。

1842年3月17日——イリノイ州ノーブーで、預言者ジョセフ・スミスによって扶助協会が組織されました。



指導者へのヒント

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、次のように教えています。「皆さんは指導者になることができます。

皆さんは、この教会の会員として、この教会が目指している大義において指導者にならなければなりません。皆さんの努力が恐れに負かされることのないようにしてください。……恐れは神からではなく、悪魔から来ます。すべての真理の敵は、皆さんの心に、あえて努力したくないという気持ちを与えたいと思っています。恐れを退けてください。真理と義と信仰の大義に雄々しくあってください。」(「生ける預言者の言葉——ゴードン・B・ヒンクレー大管長の教えと勧告」『聖徒の道』1998年6月号, 26)



「主の宮で執り行われるすべての儀式は、人の魂が不滅であるという根源的、基本的な教義へのわたしたちの信仰を体現するものとなります。神殿に参入する努力と忠実さを増し加えるとき、主はわたしたちを祝福してください。」[大管長会からの手紙]47ページ参照。ハワード・W・ハンター大管長「神殿に心を向ける民」40ページも参照。